

---

## Ⅱ. 展開科目

---

### 2. 異文化コミュニケーション領域

---

【科目番号：4200 番台】

---

1.	異文化コミュニケーション概論	[必修]	4201
2.	コミュニケーションから見る異文化交流史		4202
3.	行為としてのことば（語用論）		4203
4.	言語と文化		4204
5.	対人・組織コミュニケーション		4205
6.	非言語コミュニケーション		4206
7.	ことばと社会（社会言語学）		4207
8.	言語と人間（言語人類学）		4208
9.	環境と人間（環境コミュニケーション）		4209
10.	文化としての記号（文化記号論）		4210
11.	文化と認知		4211
12.	コミュニケーション（通訳）		4212
13.	コミュニケーション（翻訳）		4213
14.	コミュニケーション（医療）		4214
15.	文化を訳す		4215
16.	英語翻訳実践		4216
17.	英語通訳実践		4217
18.	コミュニケーションワークショップA		4218
19.	コミュニケーションワークショップB		4219

---

2020/06/30(火)11:56

授業科目名	異文化コミュニケーション概論		授業形態	講義
英語科目名	Intercultural Communication		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	岡部 大祐		ナンバリング	4201
科目担当者				
今井 純子、岡部 大祐、齊藤 美野、高濱 愛、原 和也				
授業の概要				
<p>本科目は、異文化コミュニケーションを理解・考察するための基本理論・概念の習得を目的とする。講義、ワーク、意見交換などを通じて、異文化コミュニケーションに関わる理論・概念を具体例とともに学び、様々な現象を分析・考察する練習も行う。受講生は、協働作業も含めた作品制作課題発表、グローバルな社会的課題と関連したリサーチおよび意見交換などの諸活動を通じて、異なる考え方や価値観への気づきを得ることが期待される。大学の授業というコンテクストにおいても、異なる文化的背景をもつ人々のやりとりが行われていることに注意を向けながら、体験を通じた学びを積み重ねる。本科目での学びを通じ、受講生には、自己、他者、そして様々な現象を多様な視点から捉えることができる柔軟性に加え、異文化に対する許容力を備えた、異文化コミュニケーターへの道を主体的に探っていくことを期待する。</p> <p>本科目は、本学部の4つのディプロマ・ポリシー全てに関わる。異なる意見を尊重し調整する力(②)、自らの見解を発信する力(③)に加え、現代社会の諸問題について他者と協働し、基礎教養や異文化コミュニケーションの知見を活用し、問題解決する力(①、④)を高めることを目指す。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異文化コミュニケーション学の基礎理論・概念について説明できる。</li> <li>2. 異文化コミュニケーション学の理論・概念を用いて、文化相対的な視点から諸現象を分析・考察できる。</li> </ol>				
成績評価方法				
<p>毎授業の課題提出(60%)、作品制作課題(40%)の合計点に基づき評価する。コース全体の3分の2以上の出席が成績評価対象の条件となる。※「出席」の考え方については下記参照。</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「授業の手引き」を確認したうえで、「オンライン授業参加にあたっての約束」の承認フォームを提出している。</li> <li>2. 初回授業に必ず出席すること。初回授業時に説明したことは以降の授業の前提となる。</li> <li>3. 講義の視聴・課題提出を指定期間内に行う意志をもっていること。</li> </ol>				
テキスト・参考書				
<p>教科書：なし(課題回(1)(2)の読み物A・B・C・D・Eは適宜言及される予定)</p> <p>参考書：石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人(2013)、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣。</p>				
オフィスアワー				
<p>zoom によるリアルタイム・セッション「ICカフェ」を、火曜日13:30-14:30に行う(時間変更の可能性あり)。参加希望者は、予約フォームを事前に提出すること。(詳細はGoogle Classroom で、また講義中に説明する。)ライブ配信回の日には、「IC カフェ」は、お休みとする(ただし、ライブ配信後に授業時間の余裕があれば、そのまま希望者とのアフター・セッションを行う予定)。※個別の相談は、各教員のオフィスアワーを確認後、教員宛てに指定の方法で連絡してください。</p>				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
<p>課題へのフィードバックは、講義内で行うことを基本とし、適宜Google Classroomも活用する。</p>				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
第1回 課題回	上記担当教員	課題回(1) Google Classroomにて配信済み	2020年5月10日提出締め切り。詳細はClassroomを参照。	
第2回 課題回	上記担当教員	課題回(2) Google Classroomにて配信済み	2020年5月17日提出締め切り。詳細はClassroomを参照。	
第3回 5/12 ライブ 配信回	上記担当教員	異文化コミュニケーション「学」事始 1) オリエンテーション 2) 異文化コミュニケーション学の射程 3) 自文化/自民族中心主義に立ち向かう	<p>【予習】本シラバスを熟読し、趣旨、授業計画、評価項目を理解して授業に臨む(90分)</p> <p>【復習】授業全体の説明を踏まえ、自分の受講計画を立てる/授業で学んだ概念を用いて、自分の自文化/自民族中心主義的部分を言語化する(100分)</p>	

第4回 5/19 録画 配信回	上記担当教員	理論編(1) 異文化コミュニケーション学「今昔物語」 (岡部) 1)「異文化」はどこにある？ 2)「外国」と「異文化」は同じもの？	【予習】読み物(A)を再度読んだ上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む(90分) 【復習】授業で学んだ概念を用いて、自分の自文化/自民族中心主義的な部分を言語化する(90分)
第5回 5/26 録画 配信回	上記担当教員	理論編(2) 異文化コミュニケーションとしての翻訳 (齊藤) 1) 翻訳とは何だろうか？ 2) 3種類の「翻訳」	【予習】読み物(B)を再度読んだ上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む(90分) 【復習】授業で学んだことをノート等にまとめ、作品制作課題に備える(90分)
第6回 6/2 録画 配信回	上記担当教員	理論編(3) 異文化コミュニケーションにおける言語と文化 (今井) 1) グローバル社会での言語の捉え方 2) 国際語の文化とは？	【予習】読み物(C)を再度読んだ上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む(90分) 【復習】授業で学んだことをノート等にまとめ、作品制作課題に備える(90分)
第7回 6/9 録画 配信回	上記担当教員	理論編(4) 異文化適応とカルチャーショック (高濱) 1) 異文化適応のモデルを理解する 2) カルチャーショックについて学ぶ	【予習】読み物(D)を再度読み、最終ページにある問いへの解答を再度考えておく(90分) 【復習】講義内容をもとに自分が体験したカルチャーショックの例を1つ思い出し、どのような段階があったかを振り返る。(90分)
第8回 6/16 録画 配信回	上記担当教員	理論編(5) 文化の深層構造—人は皆文化人— (原) 1) 文化の三層構造モデル 2) 価値観 3) 世界観	【予習】読み物(E)を再度読み、基本事項を理解し、自己の日常生活の中から事例を整理しておく(90分) 【復習】授業で学んだモデルや概念が、今後のさらなる自己理解と異文化理解にどのように応用できるかについて、考察を深める(90分)
第9回 6/23 録画 配信回	上記担当教員	理論編(6) 1) 理論編まとめ 2) 実践編への展開の説明 3) 作品制作課題の説明	【予習】これまでに学んだ「キーワード」を復習しておく(90分) 【復習】作品制作の準備を開始する(90分)
第10回 6/30 運営方法TBA	上記担当教員	実践編(1) ゲスト講義:異文化コミュニケーションを生きる(1)領域を越境してつなぐ ※ゲストとの調整後に詳細を通知予定	【予習】指定資料を読み、ゲスト講義の準備を行う(90分) 【復習】学んだ点を自身の作品制作に活かす方法を考える(90分)
第11回 7/7 運営方法TBA	上記担当教員	実践編(2) ゲスト講義:異文化コミュニケーションを生きる(2)領域を越境してつなぐ ※ゲストとの調整後に詳細を通知予定	【予習】指定資料を読み、ゲスト講義の準備を行う(90分) 【復習】学んだ点を自身の作品制作に活かす方法を考える(90分)
第12回 7/14 録画 配信回	上記担当教員	実践編(3) 異文化コミュニケーションを生きる(3)領域を越境してつなぐ ゲスト講義を異文化コミュニケーション学の視座から考える	【予習】指定された設問への回答を用意する(90分) 【復習】講義・ディスカッション内容を振り返りながら、ゼミ選択を含めたキャリアパスについて考えメモする(90分)
第13回 課題回	上記担当教員	実践編(4) [プロジェクト・ウィーク:制作編] 異文化コミュニケーション学にもとづく作品制作を行う。クラスメイトからのフィードバックを得て、改善する。	【予習】作品制作に必要な調べ物を行う(120分) 【復習】作品およびワークシート用意し、提出する(150分)
第14回 課題回	上記担当教員	実践編(5) [プロジェクト・ウィーク:鑑賞編] クラスメイトの作品を鑑賞し、コメントを	【予習】クラスメイトの作品を理論編で学んだ事柄と関連させながら鑑賞する(90分)

		執筆・提出する。	【復習】コメントを執筆し、提出する(90分)
第15回 7/28 運営方法 TBA	上記担当教員	総括 1) 作品制作課題へのフィードバック 2) 本科目のまとめ	【予習】これまでの授業で学んだ概念等を復習し、不明点がないか確認する(90分) 【復習】本授業で学んだ理論・概念等を、実際の社会での事象を結びつけながら振り返り、異文化コミュニケーションに関し新しく得た視点をノート等にまとめる(90分)

2020/02/25(火)10:42

授業科目名	コミュニケーションから見る異文化交流史		授業形態	講義
英語科目名	The History of Intercultural Exchange and Communication		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	渋谷 百代		ナンバリング	4202
科目担当者				
渋谷 百代				
授業の概要				
<p>本講義では、日本における異文化交流史を、主としてコミュニケーションの視座から概観し、これまでの日本が異文化との交流によって形成されてきた歴史を知り、これからの日本がどのように異質な文化と交流し世界の中で生きていくかを考える。特に、歴史の中で繰り返されるグローバリゼーションの波への対応について、異文化からもたらされた知識・概念・言語・ヒトの受容、他地域への日本文化等の普及、他国との外交関係や通訳の役割、などを軸に、多角的に異文化交流史の諸相を省察する。</p>				
授業の達成目標				
<p>1. これまでの日本が異文化との交流によって形成されてきた歴史を知る。  2. 現在の日本における異文化交流を考える。  3. これからの日本がどのように異質な文化と交流し世界の中で生きていくかを模索する。</p>				
成績評価方法				
<p>授業参加度(30%)、指定課題(40%)、期末レポート(30%)の結果に基づき総合的に評価する。なお、3分の2以上の出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>受講生は授業に参加し、質問、討論や発表を積極的に行うこと。参考図書などが課題として出された場合は、きちんと読み準備して授業にのぞむこと。</p>				
テキスト・参考書				
<p>テキストは使わず、資料を授業時に配布する。参考文献については、適宜指示する。</p>				
オフィスアワー				
<p>授業終了後に質問を受け付ける。そのほか、随時電子メール(m-shibuya@juntendo.ac.jp)で質問を受け付ける。</p>				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のコメントペーパーは、次回授業の中でクラス全体へのフィードバックを行う。</li> <li>提出された課題は、締め切り後に授業内で返却するとともに、解説を行う。</li> <li>授業最終回以降の提出物については、JUNTENDO-PASSPORTを使用する。</li> </ul>				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	渋谷 百代	<p>初回ガイダンス</p> <p>(1) 授業計画を配布し、授業の概要を説明する。</p> <p>(2) 日本が異文化との交流により形成されてきた歴史を振り返る。</p> <p>(3) 歴史を通して日本社会のあり方を概観する。</p>	<p>【予習】シラバスの記載内容を確認し、授業で扱う時代を中心に日本史・世界史の流れを大まかにおさらいしておくこと(90分)</p> <p>【復習】日本の異文化交流の歴史から現代の交流にどうつながってくるのか、コミュニケーションの視点から考える。(90分)</p>	
2	渋谷 百代	<p>●言語と変化</p> <p>(1) 言語が異文化接触によってどのように変化するか、を理解する。</p> <p>(2) 多言語多文化社会における異文化コミュニケーションの多様なありかたと多文化共生のために取り組むべき課題について考える。</p>	<p>【予習】日本語史あるいは英語史について文献を探し、異文化接触によっておきた変化について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。(90分)</p> <p>【復習】講義で学んだことをもとに、日本社会の言語環境について、考えをまとめる。(90分)</p>	
3	渋谷 百代	<p>●近代化と「日本」</p> <p>(1) 日本の近代化の中での、共通言語である「国語」の成り立ちを学ぶ</p>	<p>【予習】日本の「国語」の成立について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。(90分)</p>	

		(2) 日本語に他言語が与えた影響を学ぶ。	【復習】講義をもとに、「国語」の日本への影響をまとめる。(90分)
4	渋谷 百代	●海を渡る日本語 (1) 日系移民と日本語について学ぶ (2) 現地化や結晶化など、異文化接触の中で起きる言語現象を検討する	【予習】日系人等によって海外で使われている日本語について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。(90分) 【復習】講義を踏まえて、境界を跨ぐ言語やホスト社会との関係について考察する。(90分)
5	渋谷 百代	●戦後外交コミュニケーション (1) 第2次世界大戦後に日本外交や文化・社会活動を担った同時通訳者の活躍について学ぶ。 (2) 国際関係に異文化コミュニケーションが深く関わることを理解する。	【予習】第2次世界大戦後に日本の外交や文化活動を担った同時通訳者について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。 (例)鳥飼玖美子(2007)『通訳者と戦後日米外交』みすず書房; 鳥飼玖美子(1998)『歴史をかえた誤訳』新潮社(90分) 【復習】授業をもとに、戦後の日本外交などでの異文化コミュニケーションが日本社会に与えた影響を考察する。(90分)
6	渋谷 百代	●戦争と通訳 (1) 東京裁判におけるコミュニケーションの問題と翻訳通訳について学ぶ。 (2) 日系人の歴史について学ぶ。	【予習】東京裁判におけるコミュニケーションの問題と翻訳通訳、および日系二世について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。 (例)武田珂代子(2008)『東京裁判における通訳』みすず書房; 山崎豊子(2009)『二つの祖国』(1~4巻)新潮文庫(90分) 【復習】講義をもとに、戦争と平和に関わる言語の問題と翻訳通訳の果たす役割、移民と母国との関係などについてまとめる。(90分)
7	渋谷 百代	●グローバル化の波と日本 (1) 近代国家へ向けて動き出す日本における、ジョン万次郎と森山栄之助の役割について学ぶ (2) 捕鯨という時代背景や、フェートン号事件以降の国際状況や日本のあり方について学ぶ。	【予習】ジョン万次郎、森山栄之助について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。 (例)ブロイス(2012)『ジョン万次郎海を渡ったサムライ魂』; 井伏鱒二(1986)『さざなみ軍記 ジョン万次郎漂流記』新潮文庫; 江國弘人(2008)『幕末の外交官: 森山栄之助』弦書房; 木村直樹(2012)『<通訳>たちの幕末維新』吉川弘文館(90分) 【復習】講義をもとに、日本の異文化対応という視点からフェートン号事件の意味についてまとめる。(90分)
8	渋谷 百代	●異文化との邂逅 (1) ロシアに渡った大黒屋光太夫の異文化コミュニケーション行為について検討する。 (2) 江戸時代におけるロシアとの異文化交流について学ぶ。	【予習】大黒屋光太夫、江戸時代のロシアとの交流について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。 (例)桂川甫周『北槎聞略—大黒屋光太夫ロシア漂流記』岩波文庫; 山下恒夫(2004)『大黒屋光太夫—帝政ロシア漂流の物語』岩波新書; 渡辺京二(2010)『黒船前夜—ロシア、アイヌ、日本の三国志』洋泉社(90分) 【復習】講義をもとに、大黒屋光太夫の異文化体験とその日本への影響についてまとめる。(90分)
9	渋谷 百代	●江戸の異文化関係 (1) 四つの窓口を通じた異国との接触について学ぶ。 (2) 通事通詞の役割について理解する。	【予習】朝鮮通信使や琉球使節、長崎の唐通事、阿蘭陀通詞等に関する文献を探し、それらの日本社会に与えた影響について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。(例)林陸朗(2000)『長崎唐通事』吉川弘文館; 片桐一男(1995)『阿蘭陀通詞—今村源右衛門英生』丸善(90分) 【復習】講義で学んだことをもとに、異文化接触の社会文化史的影響についてまとめる。(90分)  【課題】2回~9回の授業の復習でまとめたもののうち、1つを選んで提出する。
10	渋谷 百代	●国際社会への対応 (1) 幕末の日本にとっての輸入学問が、蘭学から英学へ移行していく事情について、世界的時代状況とあわせて検討する。 (2) 翻訳語を中心に、日本の学問の発展への西洋の関わりを学ぶ。	【予習】ペリー来航と幕末の状況について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。 (例)渡辺京二(2005)『逝きし世の面影』平凡社; 吉村昭(1994)『黒船』中公文庫; 福沢諭吉(2010)『福翁自伝』講談社学術文庫; 福沢諭吉(2011)『現代語訳福翁自伝』ちくま新書(90分) 【復習】講義をもとに、英学が現代日本に与えている影響を考える。(90分)

11	渋谷 百代	<p>●異文化からの知の受容</p> <p>(1) 日本にとっての『解体新書』の存在について考える。また世界の医学史における異文化交流の意味について検討する。</p> <p>(2) 『ターヘルアナム』の出版における杉田玄白、前野良沢、吉雄耕牛の役割について考える。</p>	<p>【予習】『解体新書』(1774)の翻訳について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。</p> <p>(例)『新装版 解体新書』(蘭学事始)〈講談社学術文庫〉；片桐一男(2000)『江戸の蘭方医学事始—阿蘭陀通詞吉雄幸左衛門耕牛』丸善ライブラリー；吉村昭(1976)『冬の鷹』新潮文庫(90分)</p> <p>【復習】講義で学んだことをもとに、オランダ医学と蘭学者、通詞についてまとめる。(90分)</p>
12	渋谷 百代	<p>●グローバル社会の価値観と受容</p> <p>健康づくりプログラムや社会的逸脱行為問題に関する展開、異文化交流の歴史を検討する。</p>	<p>【予習】「健康」の概念の変化や健康づくりプログラムの展開について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。(90分)</p> <p>【復習】講義を踏まえ、健康づくりの価値形成をめぐる異文化交流の影響をまとめる。(90分)</p>
13	渋谷 百代	<p>●見られる「日本」</p> <p>(1) 日本におけるシーボルトの活動等について概観する。</p> <p>(2) 「シーボルト事件」と阿蘭陀通詞について学ぶ。</p>	<p>【予習】シーボルトについて調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。(例) 秦新二(1996)『文政十一年のスパイ合戦 検証・謎のシーボルト事件』文藝春秋；シーボルト(1967)『江戸参府紀行』東洋文庫；吉村昭(1993)『ふぉん・しーほるとの娘』新潮文庫(90分)</p> <p>【復習】講義で学んだことをもとに、見る側見られる側の立場を考慮した異文化接触パターンを検討する。(90分)</p>
14	渋谷 百代	<p>●国際イベント</p> <p>(1) オリンピック等、国際イベントの異文化交流史的、社会文化史的意義について考える。</p> <p>(2) 国際イベントに国際関係や異文化コミュニケーションが深く関わることを理解する</p>	<p>【予習】オリンピックについて調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。(例) パリー&amp;ギルギノフ『オリンピックのすべて—古代の理想から現代の諸問題まで』大修館書店,2008;『歴代オリンピックでたどる世界の歴史』山川出版,2017(90分)</p> <p>【復習】オリンピックや国際イベントに関わる論文や書籍などを図書館で検索・参照し、授業内容を追加、修正してまとめる。(90分)</p>
15	渋谷 百代	<p>●スポーツとナショナルアイデンティティ</p> <p>(1) スポーツが伝播・現地化した実際の事例から、異文化交流の形を検討する。</p> <p>(2) 民族文化継承、ナショナル・アイデンティティにスポーツが果たしてきた役割を考える</p>	<p>【予習】(1)野球などのスポーツの異文化屈折受容、および、移民コミュニティや植民地下での意味について調べ、質問や意見をJUNTENDO-PASSPORTに投稿する。(90分)</p> <p>【復習】講義をもとに、スポーツがアイデンティティにどのように作用していたかを検討する。(90分)</p> <p>【課題】10回~14回の授業の復習でまとめたもののうち1つを選んで提出する。</p>

2020/02/26(水)10:31

授業科目名	行為としてのことば(語用論)		授業形態	講義
英語科目名	Pragmatics		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	山下 里香		ナンバリング	4203
科目担当者				
山下 里香				
授業の概要				
語用論は、言語の構造と言語使用(語用、コミュニケーション)、そして言語が使用される社会との関係を念頭に、話し手と聞き手の相互行為において生み出される意味を研究する学問である。ことばを使うこと、つまり言語使用(語用、コミュニケーション)は、情報伝達の手段である。しかし情報伝達以外に、人と人を結びつけたり疎遠にしたり、話し手のアイデンティティを示したりというように、なんらかの「行為」がなされている。本講義では、このような言語使用(語用、コミュニケーション)の特徴と機能を語用論の理論に基づいて学ぶ。そして、文化の異なりがどのように言語使用に反映し、コミュニケーションに影響を与えるのかを知るために、異文化語用論、社会語用論、会話分析、談話分析についても触れ、具体的な事例を考察する。				
授業の達成目標				
1. 語用論の基本理論を理解し、説明できる。 2. 言語使用(語用、コミュニケーション)に行為の側面があることを理解し、説明できる。 3. 異なる文化・言語をもつ話者同士のコミュニケーション・スタイルにおいて生じる齟齬(ズレ)を分析的に説明できる。				
成績評価方法				
授業への出席と積極的参加(20%)、レポート課題(40%)・テスト(40%) 授業15回のうち12回以上の出席を、評価の前提条件とする。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
「授業時間外の指導等」欄の指示をよく読み、毎回の授業には適切な準備を行なったうえで参加すること。授業において積極的な発言や参加を歓迎する。体系的な学びのために「ことばと社会(社会言語学)」、「言語と人間(言語人類学)」の履修を勧める。				
テキスト・参考書				
テキストは適宜PDFで共有する。ただし、授業中にそのテキストをスマートフォンで表示して見るのは禁止する。必ず、紙に印刷してくるか、タブレットやノートPCなどを用いて表示すること。				
参考書: 田中典子(2012/2006)『プラグマティクス・ワークショップ:身のまわりの言葉を語用論的に見る』(第二版).春風社. 加藤重広・滝浦真人編(2016)『語用論研究法ガイドブック』ひつじ書房 中島信夫編(2012)『語用論(朝倉日英対照言語学シリーズ)』朝倉書店 ヘレン・スペンサー＝オーティ(2004)『異文化理解の語用論—理論と実践』研究社 ヤコブ・メイ(2005)『批判的社会語用論入門』三元社. ジェニー・トーマス(1998)『語用論入門』研究社. Yule, G. (1996). Pragmatics. Oxford: Oxford University Press. ブラウン,P,&レヴィンソン,S. (2016/2011)『ポライトネス:言語使用における、ある普遍現象』研究社 ガンパーズ,J(2004). 『認知と相互行為の社会言語学』松柏社.				
その他授業内で適宜紹介する。				
オフィスアワー				
授業前後に質問してください。または、メールにて事前にアポイントメントをとってください。(rikayam1@kanto-gakuin.ac.jp)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内およびJ-Passにて講評を行う。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	山下 里香	初回ガイダンス 1) 授業計画を配布し授業の進め方を説明する。 2) 「語用論」とは何か。語用論がコミュニケーションと言語使用に関する研究分野であることを確認し、言語学や異文化コミュニケーション学において語用論	【予習】第1回目の講義までに教科書を手し、「語用論」とはどのような学問分野であるかをChapter 3「語用論とは何か」(pp. 15-22)を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)	



		を学ぶ意義を明確にする。	
2	山下 里香	オースティンの発話行為理論① 1) ことばを用いる、つまり、話すということが何らかの行為をするということについて、オースティンが唱えた「発話行為」理論を紹介し、説明する。 2) 「遂行文」の例を示し、身近で用いられている「遂行文」の例を出し合い、その特徴を議論する。	【予習】教科書のChapter 4「発話行為」(pp. 23-30)を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
3	山下 里香	オースティンの発話行為理論② 1) 発語 (locution)、発語内行為 (illocution)、発語媒介行為 (perlocution) について講義する。 2) グループにわかれ、Chapter 5の「謝罪」という発話行為の事例を発語、発語内行為、発語媒介行為を軸に分析し、発話がもつ意味と効力について考え、報告する。	【予習】教科書のChapter 5「調査1: 謝罪という発話行為」(pp. 31-38)を読んでおくこと。(90分) 【レポート課題①】オースティンの発話行為理論について授業内の指示に基づいてレポートを作成し、提出すること。(90分)
4	山下 里香	グライスの会話の含意 1) ことばで語られないことをも補って発話の意味は解釈される。その仕組みについて含意 (implicature) と推論 (inference) を軸に講義する。 2) 身近な日常会話の事例をグループで分析し、発表する。	【予習】教科書のChapter 6(pp. 39-46)「会話の含意」を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
5	山下 里香	グライスの会話の公理と協調の原則 1) グライスが唱えた、量、質、関係、様式の「会話の公理」を説明する。 2) 会話の公理が破られた際に生じる「意味」(含意、効果)を協調の原則に基づいて考察する。	【予習】前回の授業で指示された課題をしておくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
6	山下 里香	異文化語用論① 前回までの授業で学んだ発話行為理論と会話の公理等を踏まえ、異文化間においてこれらの指針がどのように異なるかを示す事例を研究する。	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【レポート課題②】これまでに学んだ理論を用いて授業内で指示する異文化語用論の事例について考察し、レポートにまとめ提出すること。(90分)
7	山下 里香	サールの間接的発話行為と発話行為の成立条件 1) これまでに学習したオースティン、グライスの理論を振り返りながら、サールが唱える間接的発話行為について考察する。 2) 発話行為の成立条件について説明し、グループに分かれ「謝罪」や「命令」、「依頼」など具体的な発話行為の事例を分析し、議論する。	【予習】教科書のChapter 7「間接発話行為」(pp. 47-54)を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
8	山下 里香	語用論と間接的な言い回し これまでに学んだ間接的な発話の理論や事例を踏まえ、間接的な発話がなされるコンテキストと解釈の可能性について考察する。	【予習】前回の授業で指示された課題をしておくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
9	山下 里香	ポライトネス理論とフェイス① 1) 語用論で用いられる「ポライトネス」という概念について説明する。 2) 敬意表現、あらたまりの度合いを示す表現が用いられた事例をポライトネスの視点から分析し考察する。	【予習】教科書のChapter 8「ポライトネス」(pp. 55-63)までを読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
		ポライトネス理論とフェイス② 1) ブラウン&レヴィンソンのポライトネ	

10	山下 里香	ス理論について、フェイスの概念とフェイスを脅かす行為(FTA)に焦点を当てて講義する。 2) 具体的な会話事例を提示し、ポライトネス理論、FTAの視点から分析し、考察する。	【予習】教科書のChapter 9「ポライトネス(2)」(pp. 64-71)を読んでおくこと。(90分) 【レポート課題③】ポライトネス理論とフェイスに関して、授業内の指示に従ってレポートを作成し、提出すること。(90分)
11	山下 里香	異文化語用論② 異なる文化間においては、間接的・直接的な発話の仕方や、ポライトネス方略も異なることを示す事例を研究する。	【予習】教科書Chapter 11「異文化語用論」(pp. 80-86)を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習し、学期末課題の準備を始めること。(90分)
12	山下 里香	語用論と会話分析① 1) 語用論と「会話分析」という研究方法について関連性を講義する。 2) 「会話分析」の基本用語と概念(話者交替、移行適切場所、隣接ペア等)を説明する。	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【復習】授業内容を復習し、学期末課題に取り組むこと。(90分)
13	山下 里香	語用論と会話分析② 前回の授業で学んだ「会話分析」の概念を用い、実際の会話事例を分析し、発表する。	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【復習】授業内容を復習し、学期末課題に取り組むこと。(90分)
14	山下 里香	社会語用論 これまで学んできた語用論の理論を、社会における権力関係をコンテクスト要素として明示的に取り入れたヤコブ・メイの「社会語用論」の理論と対照させながら講義する。	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【復習】授業内容を復習し、学期末課題に取り組むこと。(90分)
15	山下 里香	全体のまとめ なぜ「語用論」を学ぶ意義があるのかについて、これまでに学んだことからグループで議論する。 最終テスト	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【復習】なぜ「語用論」を学ぶ意義があるのかについて、これまでに学んだことから考察し、まとめる。(90分)

2020/08/04(火)14:22

授業科目名	言語と文化		授業形態	講義
英語科目名	Language and Culture		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	山本 史郎		ナンバリング	4204
科目担当者				
山本史郎				
授業の概要				
受講者自身が、イギリス文学、児童文学の名作等を翻訳し、更に出版された翻訳、及び日本文学の英語への翻訳の例を検討することを通じて、言語とは何か、文化とは何か、そして翻訳とは何かについて考察する。また、文字テキストから映像テキストへの転換(すなわち文学作品の映画化など)についても考察する。				
授業の達成目標				
翻訳の実践を通じて、基本的な翻訳方法を学ぶとともに、英語及び日本語の言語としての特徴や、英米文化と日本文化の理解を深める。また文化と文化をつなぐ翻訳とはどのような営みであるのかについて考え、基本的な理論を学ぶ。				
成績評価方法				
課題の提出及び授業への貢献が30%、期末レポートが70%				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
ほぼ毎週、翻訳の課題、もしくは配布資料へのコメントが宿題として課され、メールによる期日通りの提出が求められる。授業は受講者による活発な発言を前提として進められる。				
テキスト・参考書				
参考書: 山本史郎著『東大の教室で「赤毛のアン」を読む』(東京大学出版会) 山本史郎著『翻訳の授業 - 東京大学最終講義』(朝日新書、5月刊行予定) J.R.R.トールキン著(山本史郎訳)『ホビット』(原書房)				
オフィシアワー				
金曜日の授業後				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
山本が提出物をプリントアウトし、コメントとともに返却する				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	山本	イントロダクション:授業の進め方の説明 論理的な文章の翻訳演習	【予習】シラバスと参考書に目をとおり、翻訳について考える。(90分) 【復習】講義内容のプリントを再度読み、授業全体のイメージをつかむ。(90分)	
2	山本	様々な翻訳:芭蕉の俳句の英訳について	【予習】課題プリントの熟読とコメントの準備(90分) 【復習】俳句の翻訳について授業で学んだことを再確認する。(90分)	
3	山本	The Borrowers (Mary Norton)の一節の翻訳、及び議論	【予習】課題文の訳(90分) 【復習】レトリックの翻訳について授業で学んだことを再確認する。(90分)	
4	山本	The Wind in the Willows (Kenneth Grahame)の一節の翻訳、及び議論	【予習】課題文の訳(90分) 【復習】イギリス文化と階級意識について学んだことを再確認する。(90分)	
5	山本	The Hobbit (J.R.R.Tolkien)の一節の翻訳、及び議論	【予習】課題文の訳(90分) 【復習】物語の流れがいかに翻訳されるかについて、学んだことを再確認する。(90分)	
6	山本	Anne of Green Gables (L.M. Montgomery)の一節の翻訳、及び議論	【予習】課題文の訳(90分) 【復習】文体の翻訳について学んだことを再確認する(90分)	
7	山本	Anne of Green Gables (L.M. Montgomery)の一節の翻訳、及び議論	【予習】課題文の訳(90分) 【復習】翻訳の創造的役割について学んだことを再確認する(90分)	
		英日の翻訳例の検討(Charles Dickens)	【予習】課題文の訳(90分)	

8	山本	s, Christmas Carol)	【復習】テキストの多様な機能について学んだことを再確認する。(90分)
9	山本	英日の翻訳例の検討(J.R.R.Tolkien, The Hobbit)	【予習】資料へのコメント(90分) 【復習】原作と翻訳の意味や形式のずれについて学んだことを再確認する(90分)
10	山本	日英の翻訳例の検討(三島由紀夫、「新聞紙」)	【予習】資料へのコメント(90分) 【復習】文化の翻訳について学んだことを再確認する(90分)
11	山本	日英の翻訳例の検討(川端康成、『雪国』)	【予習】資料へのコメント(90分) 【復習】詩的テキストの翻訳について学んだことを再確認する(90分)
12	山本	野上豊一郎の翻訳論:『ハムレット』のセリフの翻訳をめぐる論争	【予習】資料へのコメント(90分) 【復習】逐語訳とは何かについて学んだことを再確認する(90分)
13	山本	Eugene Nida の翻訳論: Formal Equivalence と Dynamic Equivalence	【予習】資料へのコメント(90分) 【復習】翻訳における「等価」について学んだことを再確認する(90分)
14	山本	Lawrence Venuti の理論: Foreignization と Domestication	【予習】資料へのコメント(90分) 【復習】翻訳と文化の関係について学んだことを再確認する(90分)
15	山本	まとめ、質問、及び知識の確認	【予習】講義全体を振り返って、質問やコメントを準備する(90分) 【復習】本講義で学んだことについて、知識の整理を行う(90分)

2020/04/16(木)11:04

授業科目名	対人・組織コミュニケーション		授業形態	講義
英語科目名	Interpersonal and Organizational Communication		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	岡部 大祐		ナンバリング	4205
科目担当者	岡部 大祐			
授業の概要	<p>本授業の目的は、現代社会の諸問題を「コミュニケーション」をキーワードとして、経験科学の知見を活用して分析し、解決策を提示する力を養うことである。本授業は、「コミュニケーション概論」「異文化コミュニケーション概論」で培った基礎的なコミュニケーションについての理解を、より専門的に、より精緻に理解することを目指すものである。グローバリゼーションを背景とし、多文化化が進む社会における対人コミュニケーションならびに組織コミュニケーションに焦点を当てる。受講生は、関連する諸概念や説明モデルについて学び、対人関係ならびに組織における(異文化)コミュニケーションを多面的に分析、考察していく。受講生は、毎回、小グループに分かれて、各授業の内容について議論し、対人ならびに組織のコミュニケーションに関する概念、説明モデル、重要な問題等について理解を深める。したがって、受講生には主体的な参加が期待されていることを理解した上で履修されたい。プロジェクト・ベースの授業のため、万が一受講生が50名を超える場合には履修制限を行う。そのため、受講希望者は初回授業の出席を「必須」とする。本授業で習得するスキルは、本学部の4つのディプロマ・ポリシー全てに関わるものである。1、2年次に習得した3領域の基本知識を統合し、他者と協働しての問題解決活動に従事し、自らの意見を筋道立てて発信し、異なる意見との調整も求められる。</p>			
授業の達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業で扱う対人ならびに組織コミュニケーション研究での概念や説明モデルを理解し、自分で考えた具体例をあげて説明できる。</li> <li>2. 対人ならびに組織コミュニケーションを授業で扱う概念や説明モデルを適切に用いて分析、考察できる。</li> <li>3. 具体的な社会問題について他者と協働し、問題解決を導くことができる。</li> <li>4. 授業の「外」に学びを活用するアナロジー思考をすることができる。</li> </ol>			
成績評価方法	<p>コミュニケーション・プロジェクト(複数回)(50%)＋期末試験(30%)＋参加度(20%)の結果に基づき総合的に評価する。なお、3分の2以上の出席を評価の前提条件とし、欠席は減点する。公欠による欠席は、その旨「事前に」担当教員に申し出ること。それ以外の欠席については等しく欠席扱いとする。</p>			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)	<p>初回は授業の在り方に対する共通理解を形成するため、履修希望者は「必ず」出席すること。欠席した場合でも、初回で確認した授業の約束事等は等しく適用されるので注意されたい。他の受講生との共同作業が多いため、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取り、他の受講生に対する敬意を示し、良いところを見つけ、褒め合うこと。</p> <p>担当教員への相談は、原則オフィスアワーで対応する。事前にメールにて連絡すること(okabemailbox@gmail.com)。</p>			
テキスト・参考書	<p>教科書：なし。必要に応じてプリント教材を配布する。 参考書：適宜授業にて紹介する。</p>			
オフィスアワー	<p>専任教員のオフィスアワー一覧を参照のこと。</p>			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	<p>グループ発表へのコメント、提出レポートへのコメントなどを介して行う。</p>			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	岡部 大祐	<p>オリエンテーション:対人・組織コミュニケーション(研究)の射程と重要性の確認</p> <p>(1) シラバスを配布し、授業の目的、内容、評価方法、課題等を確認する。</p> <p>(2) 対人コミュニケーション、組織コミュニケーション研究が扱うトピックを示し、その重要性について議論をする。</p>	<p>【予習】 シラバスを事前に読み、自分自身の目標を考え、1分程度で発表できるようにしてくる(90分)</p> <p>【復習】 「自分のシラバス」を作成する。(60分)</p>	
		対人コミュニケーション(1):その「光」と「陰」	<p>【予習】 「コミュニケーション概論」の内容を復習してくる。(60分)</p>	

2	岡部 大祐	(1) コミュニケーションがなぜ重要なのか、「ニーズ」の観点から考察する (2) コミュニケーションが引き起こす否定的な側面を検討する	【復習】 授業で検討したものと似た事例を見つけ、次回報告できるようまとめておく。(90分)
3	岡部 大祐	対人コミュニケーション(2): 人が増える と? (1) 複数名が関わるコミュニケーションと1対1のコミュニケーションとを比較し、それぞれの特徴を理解する	【予習】 自分の実際の経験を振り返り、複数人でのコミュニケーションでのトラブルを想起し、報告できるようにノートにまとめておく(30分) 【復習】 授業で学んだ理論・概念を用いて、SNSのコミュニケーションを分析してみる。(90分)
4	岡部 大祐	対人コミュニケーション(3): プレゼンテーション(1) グループ・プレゼンテーションを実施する	【予習】 プレゼンテーションのアウトラインを作成し、リハーサルをしておく。(120分) 【復習】 授業でのフィードバックを整理し、改善のための課題をノートにまとめておく。(40分)
5	岡部 大祐	対人コミュニケーション(4): 精緻化する グループワークを対人コミュニケーションの理論的知見を用いて振り返り、共有する	【予習】 先回の「復習」で記載した課題を共有できるように、ハンドアウトの形にしておく。(60分) 【復習】 「対人コミュニケーション」の授業での学びをノートに整理する。(90分)
6	岡部 大祐	組織コミュニケーション(1): 組織って何? (1) 「組織」を他の社会集団と比較し、その特徴を理解する (2) 組織内と組織間コミュニケーションの特徴を考え、対人コミュニケーションとの類似点・相違点を理解する	【予習】 自分の考える「組織」の例をできるだけ「多く」考え、ノートにまとめる。(30分) 【復習】 授業の内容を踏まえ、新しく発見した「組織」を集めておく。(90分)
7	岡部 大祐	組織コミュニケーション(2): 「多文化組織」 (1) 「多文化」組織とはどのようなものか、特徴を検討する (2) 「多文化組織」のコミュニケーションとその他の組織でのコミュニケーションの類似点と相違点を理解する	【予習】 自分が「多文化組織」だと考える事例を調べ、集めてくる。(40分) 【復習】 授業内容を確認し、多文化組織でのコミュニケーションの課題をまとめておく。(30分)
8	岡部 大祐	組織コミュニケーション(3): 異文化シナジー (1) 組織内の文化的多様性が生み出すもの(肯定的なもの、否定的なものも含めて)を検討する (2) 「異文化シナジー」を創出する方法を検討し、実践する	【予習】 「ファシリテーション」のスキルを復習しておく。(50分) 【復習】 授業内容を踏まえ、異文化シナジーの事例だと考えられる事例を探し、ノートにまとめる。(40分)
9	岡部 大祐	組織コミュニケーション(4): リーダーシップとフォロワーシップ (1) 多文化組織とその他の組織のリーダーシップの類似点と相違点を検討する (2) 組織コミュニケーションの中でのフォロワーシップの意義を検討する	【予習】 「リーダー」の資質だと自分が考える要素とその理由をノートに書き出してくる。(60分) 【復習】 授業内容を踏まえ、自分の身近で「リーダーシップ」「フォロワーシップ」が観察されたものをまとめておく。(40分)
10	岡部 大祐	組織コミュニケーション(5): プレゼンテーション(2) (1) プロジェクト中間発表	【予習】 プレゼンテーションのリハーサルを行う。(60分) 【復習】 他グループの発表を踏まえ、自分たちのグループの改善案をまとめておく。(40分)
11	岡部 大祐	組織コミュニケーション(6): 準備 (1) プロジェクトの準備	【予習】 プレゼンテーションに必要な資料を集めておく。(40分) 【復習】

			この日のアウトカムを評価し、次回の準備の改善点をまとめておく。(60分)
12	岡部 大祐	組織コミュニケーション(7):準備 (1)プロジェクトの準備	【予習】 この日のアウトカムとアジェンダを準備し、グループで共有しておく。(60分) 【復習】 発表の内容に抜け漏れがないかを振り返り、書き出しておく。(50分)。
13	岡部 大祐	成果発表(グループ・プレゼンテーション) (1)プロジェクトの発表と批評	【予習】 プレゼンテーションのリハーサルをしておく。(60分) 【復習】 他グループの発表を踏まえ、自分たちのグループの改善案をまとめておく。(60分)
14	岡部 大祐	成果発表(グループ・プレゼンテーション) (1)プロジェクトの発表と批評	【予習】 プレゼンテーションのリハーサルをしておく。(60分) 【復習】 他グループの発表を踏まえ、自分たちのグループの改善案をまとめておく。(60分)
15	岡部 大祐	授業全体の総括・シェアリング	【予習】 コース全体のノートを確認しておく。(60分) 【復習】 自分が務めたいと考える組織について調べ、授業で学んだコミュニケーションの点からどのような特徴があるかを調べてみる。(120分)

2020/02/21(金)14:12

授業科目名	非言語コミュニケーション		授業形態	講義
英語科目名	Nonverbal Communication		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	原 和也		ナンバリング	4206
科目担当者				
原 和也				
授業の概要				
<p>対人コミュニケーションの場において意味の解釈・理解がなされる時、非言語メッセージは言語メッセージ以上に重要な役割を持つと言われている。その研究領域は多岐に渡り、動作、視線、顔の表情、周辺言語、沈黙、身体接触、対人距離、時間、色彩などがある。これらのチャンネルを通じて行われる非言語コミュニケーションでは、伝達されるメッセージを誰もが同じように解釈することが困難である。なぜなら個人差、男女差、文化的差異、状況の差異などによってその意味するところにずれが生じる可能性があるからである。グローバル化が進む現代において、国境を越えて活躍する人々がコミュニケーションを円滑に行うために、このような非言語コミュニケーションに対する知識は今後益々重要となっていく。これらの事柄を踏まえた上で、本講義では、学際的アプローチにより非言語メッセージの諸相を学習し、各研究領域における具体例を考察し理解を深めることを目標とする。</p>				
授業の達成目標				
非言語行動の心理的メカニズムについて十分な知識を得ており、高い感受性ととくにバランスのとれたコミュニケーション能力を、認知、情意、行動面から高めることができる。				
成績評価方法				
1. 期末試験(持込不可): 60%				
2. フィールドワーク・リサーチ・レポート及び発表(グループワーク): 40%				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
1. 履修希望者は、第一回目の講義に必ず出席すること				
2. 第一回目に配布するシラバスに記載された禁止事項を厳守すること				
3. 授業中の各種活動及びフィールド・ワーク調査レポートに、他者と協力しながら取り組むこと				
テキスト・参考書				
テキスト: 毎回ハンドアウト(A3サイズ使用)を配布する				
参考書(自習用): 1. マジョリー・F・ヴァーガス(著)/石丸正(訳)(1987)『非言語コミュニケーション』新潮社.				
2. パターソン、M. L. (2013)/大坊 郁夫(訳)『ことばにできない想いを伝える: 非言語コミュニケーションの心理学』誠信書房.				
オフィスアワー				
授業時間の前後				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
試験へのフィードバックは個別に対応する。レポートの評価はルーブリックによる。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	原 和也	オリエンテーション(授業の進め方、分野の全体像)	事前: 講義要項を読み、授業のシステムを理解する(90分) 事後: 各回のテーマを理解する(90分)	
2	原 和也	非言語コミュニケーション・メッセージの特徴	事前: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後: 授業内容を復習し、参考文献欄より選んだ文献を読む(90分)	
3	原 和也	身体動作学	事前: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後: 授業内容を復習し、参考文献欄より選んだ文献を読む(90分)	
4	原 和也	視線接触学	事前: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後: 授業内容を復習し、参考文献欄より選んだ文献を読む(90分)	
5	原 和也	フィールド・ワーク調査法と調査倫理	事前: 研究テーマの候補を用意してくる(90分) 事後: テーマを決定し、調査計画を立てる(90分)	



6	原 和也	周辺言語	事前: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後: 授業内容を復習し、参考文献欄より選んだ文献を読む(90分)
7	原 和也	接触学	事前: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後: 授業内容を復習し、参考文献欄より選んだ文献を読む(90分)
8	原 和也	近接空間学	事前: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後: 授業内容を復習し、参考文献欄より選んだ文献を読む(90分)
9	原 和也	幼児の発達と非言語メッセージの知覚	事前学修: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後学修: レスポンス・シートをまとめる(90分)
10	原 和也	時間概念学	事前: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後: 授業内容を復習し、参考文献欄より選んだ文献を読む(90分)
11	原 和也	色彩と知覚	事前: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後: 授業内容を復習し、参考文献欄より選んだ文献を読む(90分)
12	原 和也	ボディー・メッセージ(対物学)	事前: 事前に与えられる問題に対して、答えを用意する(90分) 事後: 授業内容を復習し、参考文献欄より選んだ文献を読む(90分)
13	原 和也	フィールド・ワーク調査の分析結果発表 1	事前学修: 発表準備(90分) 事後学修: 受講生からのフィードバックをレポート作成に取り入れる (90分)
14	原 和也	フィールド・ワーク調査の分析結果発表 2	事前学修: 発表準備(90分) 事後学修: 受講生からのフィードバックをレポート作成に取り入れる (90分)
15	原 和也	フィールド・ワーク調査の分析結果発表 3、総まとめ	事前学修: 事前に与えられるプリントを読み、解答を準備する(90 分) 事後学修: プリントの問いに対する解答と要点をまとめる(90分)

2020/02/21(金)17:05

授業科目名	ことばと社会(社会言語学)		授業形態	講義
英語科目名	Sociolinguistics		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	齊藤 美野		ナンバリング	4207
科目担当者	齊藤 美野			
授業の概要	<p>私たちが日々の暮らしの中で当たり前に使っている「ことば」について、ことばが使用される社会・状況、ことばを使用する人々の社会的属性(地域、社会階層、年齢、ジェンダーなど)との関わりを考えながら、意識を高めることを目指す。ことばの使用は使用者の自覚の有無にかかわらず社会的要素などから影響を受ける。このようなコミュニケーションの実際に、多様な角度から接近し理解を深める。受講生は講義を通じて言語への社会言語学的アプローチを学び、グループ・ワークなどを通して言語現象の分析の練習をし、身の回りにある言語現象の研究発表を個々に行う。</p>			
授業の達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語と社会・状況・使用者の関係性について注意して考え、自身の意見を他者に伝えることができる。</li> <li>2. 社会言語学の用語・概念を理解し、説明できる。</li> <li>3. 授業で学んだことを活かし(引用・応用)、言語現象に関する研究を行い、発表できる。</li> </ol>			
成績評価方法	<p>授業内課題・グループワークへの参加・貢献度(20%)、小テスト(講義・教科書から学んだ点の理解度)×2回(30%)、研究発表(各概念・理論の理解・応用度合、論理性)(10%)、レポート(各概念・理論の理解・応用度合、論理性)(40%)の合計点により最終評価を行う。 3分の2以上の授業回出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。</p>			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)	<p>【履修者数の制限】履修者数の上限を45名とする。履修希望者が左記の上限を上回る場合、初回授業中に、上の学年の学生を優先したうえで抽選を行う。履修希望者は、初回授業に必ず出席すること。 【課題・準備】「授業時間外の指導等」欄をよく読み、毎回の授業のために必要な準備を欠かさず行うことを期待する。 研究発表(レポートを含む)に向けて、授業時間外に各自研究を行い、授業内外で発表・レポートの準備を入念に行ってもらおう。</p>			
テキスト・参考書	教科書: 岩田祐子・重光由加・村田泰美(2013).『概説 社会言語学』ひつじ書房。			
オフィスアワー	初回授業にて告知する。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	小テストは、授業にて返却する。レポートの返却を希望する者には、後期開始時に返却する。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	齊藤 美野	<p>授業への導入</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会言語学とはどのような学問分野か知る</li> <li>2) 普段使用していることばについて、社会言語学の観点から考える練習をする</li> </ol>	<p>【予習】初回の授業までに教科書を用意し、持参する また、いま気になっている(あるいはこれまでに興味をもった)ことば・言語使用をA4用紙に書き出してくる(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)</p>	
2	齊藤 美野	<p>言語と地域</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「方言」「言語変種」について学ぶ</li> <li>2) 言語と「威信」の関係について考える</li> </ol>	<p>【予習】教科書第2章の2.1(pp. 13-14)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)</p>	
3	齊藤 美野	<p>ゲスト講義 * 変更可能性あり 藤田ラウンド幸世氏(国際基督教大学客員准教授)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 宮古島とみや〜くふつ</li> <li>2) ドキュメンタリーフィルム『みや〜くふつの未来』上映</li> </ol>	<p>【予習】指定資料を読み、内容を理解してから授業に臨むこと(90分) 【復習】本日の授業についてリアクション・ペーパーを執筆し、提出する(詳細は授業中に告知する)(90分)</p>	

4	齊藤 美野	言語と社会階層／言語と民族 1) 「社会階層方言」について学ぶ 2) W. Labovの調査方法と結果を学ぶ 3) 「AAVE」「ピジン」「クレオール」について学ぶ	【予習】教科書第3章の3.1から3.3(pp. 35-37)と第4章の4.1から4.4(pp. 51-56)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考え、書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
5	齊藤 美野	言語とジェンダー(1) 1) 「ジェンダー」について考える 2) 言語使用とジェンダーの関わりを考える	【予習】教科書第5章の5.1から5.3.2(pp. 69-73)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
6	齊藤 美野	言語とジェンダー(2)／社会言語学の研究方法 1) 性差別的言語について学ぶ 2) 学期末の各自の研究に向け、研究方法を学ぶ	【予習】教科書第20章を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
7	齊藤 美野	小テスト1 言語と年齢 1) 若者ことばの特徴を学ぶ 2) 若者ことばの調査・分析を行う	【予習】小テストに向けた準備をする(出題範囲等は授業内で説明する)(120分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
8	齊藤 美野	☆研究構想報告書提出日 言語の選択 1) 多言語社会について知る 2) 社会における言語選択について学ぶ	【予習】研究構想報告書を執筆する(学期末に行う研究の構想をまとめる。詳細は授業内に説明する) 教科書第7章の7.1から7.3(pp. 99-103)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
9	齊藤 美野	言語の状況差、適切さ 1) 「レジスター」「スタイル」について学ぶ 2) スピーチ・アコモデーション理論を学ぶ	【予習】教科書第8章の8.5から8.6(pp. 127-128)を読んでおく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
10	齊藤 美野	ポライトネス 1) 「フェイス」について学ぶ 2) 「ポライトネス・ストラテジー」を学ぶ	【予習】教科書第9章の9.1から9.4(pp. 131-139)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本授業で学んだ事柄を振り返りながら、各自の研究を進める(90分)
11	齊藤 美野	事例研究: これまでに学んだ理論を用い、提示された会話を分析する	【予習】事例研究のための指定資料を読み、考察しておく(90分) 【復習】本授業で学んだ事柄を振り返りながら、各自の研究を進める(90分)
12	齊藤 美野	小テスト2 研究発表の準備: クラスメイトと協力し、各自の研究の不足点等を確認しながら、準備を進める	【予習】小テストに向けた準備をする(出題範囲等は授業内で説明する)(120分) 【復習】本授業で学んだ事柄を振り返りながら、各自の研究を進める(90分)
13	齊藤 美野	研究発表(1) 1) 独自の研究成果を発表する(この回の担当者のみ) 2) クラスメイトの発表について、直接質問をしたり、関心や疑問をもった点などを記すリアクション・ペーパーを書く	【予習】発表担当者は入念に準備し、練習をしておく(準備の仕方は授業内に説明する)(120分) 【復習】クラスメイトの発表から知った事柄を、本授業で学んできた理論等と結びつけながら振り返り、ノート等にまとめる(90分)
14	齊藤 美野	研究発表(2) 1) 独自の研究成果を発表する(この回の担当者のみ) 2) クラスメイトの発表について、直接質問をしたり、関心や疑問をもった点などを記すリアクション・ペーパーを書く	【予習】発表担当者は入念に準備し、練習をしておくこと(準備の仕方は授業内に説明する)(120分) 【復習】クラスメイトの発表から知った事柄を、本授業で学んできた理論等と結びつけながら振り返り、ノート等にまとめる(90分)
		研究発表(3)とまとめ 1) 独自の研究成果を発表する(この回	【予習】発表担当者は入念に準備し、練習をしておくこと(準備の仕方は授業内に説明する)／レポートを執筆する(レポートの詳しい説

15	齊藤 美野	の担当者のみ) 2) クラスメイトの発表について、直接質問をしたり、関心や疑問をもった点などを記すリアクション・ペーパーを書く	明は、授業内で行う)(180分) 【復習】クラスメイトの発表から知った事柄を、本授業で学んできた理論等と結びつけながら振り返り、ノート等にまとめる(30分)

2020/02/26(水)10:33

授業科目名	言語と人間(言語人類学)	授業形態	講義
英語科目名	Linguistic Anthropology	開講学期	後期
対象学年	3	単位数	2
科目責任者	山下 里香	ナンバリング	4208
科目担当者			
山下 里香			
授業の概要			
<p>人類学とは、人間について探求する学である。その中でも、言語人類学は、社会・文化的存在としての人間について、言語とコミュニケーションという視点から研究する領域である。本講義では、言語人類学の基本的な考え方、研究方法、コミュニケーション観について概観しながら、私たちの身近で行われている具体的な言語活動やコミュニケーションについてさまざまな角度から観察し、言語と社会・文化との深い関わりについて考察する。こうした活動を通して、多言語多文化共生という今日的な課題に欠かせない異文化理解の道筋を共に模索する。</p> <p>キーワード: 言語相対性理論、ことばと思考・認知、記号表現と記号内容の関係、ヤコブソンのコミュニケーションモデル、ことばの民族誌、言語イデオロギー、言語社会化</p>			
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語人類学という学問領域の主要概念と研究方法について説明できる。</li> <li>2. 言語人類学の基本的な概念・理論、コミュニケーションモデルを使って、実際の言語分析、コミュニケーション分析を行うことができる。</li> <li>3. 言語と社会・文化との多層的な関係について考察を深め、多言語多文化共生という今日的課題について自らの考えを構築できる。</li> </ol>			
成績評価方法			
<p>授業への積極的・主体的参加と貢献 20%</p> <p>中間レポート課題 20%</p> <p>期末レポート課題 20%</p> <p>中間テスト 20%</p> <p>期末テスト 20%</p> <p>なお、履修人数により、上記の課題の数等を変更することがある。</p> <p>12回以上の出席を評価の前提条件とする。 公式な事情等で欠席する場合は、欠席届や該当する情報(案内、予約メール等のスクリーンショット)を添付しメールにて連絡すること—考慮の必要のあるものは、学期末の出席回数カウントの際に考慮する)</p>			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講希望者は、事前にシラバスをよく読み、第1回授業に必ず出席すること。</li> <li>・指定された課題については、必ず準備して授業にのぞむこと。授業は、講義とグループやクラス全体での討論・発表を組み合わせた受講者参加型形式で進める。受講者には自ら考え、その日の課題に主体的・積極的に取り組む姿勢、仲間と共に学び合う態度が求められる。</li> <li>・クラスの状況や要望により講義計画が一部変更されることがある。</li> </ul>			
テキスト・参考書			
<p>授業で用いる資料は、授業支援サイト内でPDFで配布する。 ただし、授業中にそのPDF資料を利用する場合には、印刷した紙媒体、PC端末、タブレット端末のいずれかで利用することをルールとする。(=スマートフォンで読まないこと)</p> <p>参考書: 井出里咲子・砂川千穂・山口征孝(2019)『言語人類学への招待—ディスコースから文化を読む』ひつじ書房(定価 2400円+税) Ahearn, L. M. (2017) Living Language: An Introduction to Linguistic Anthropology (2nd. ed.) Oxford: Wiley-Blackwell. 今井むつみ(2010)『ことばと思考』岩波新書 宮岡伯人(編)(1996)『言語人類学を学ぶ人のために』世界思想社</p>			

井上京子(1998)『もし「右」や「左」がなかったら—言語人類学への招待』大修館書店  
 武黒麻紀子(編)(2018)『相互行為におけるディスコーダンス—言語人類学からみた不一致・不調和・葛藤』ひつじ書房  
 Salzmann, Z., Stanlaw, J., & Adachi, N. (2015) Language, Culture, and Society: An Introduction to Linguistic Anthropology (6th ed.) Boulder, CO: Westview Press,  
 他、随時授業時に提示する。

オフィスアワー

授業前後に質問してください。または、メールにて事前にアポイントメントをとってください。(rikayam1@kanto-gakuin.ac.jp)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法

中間レポート課題やテストについては授業時、期末レポート課題についてはオンラインにてフィードバックを行う。

授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】

授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)
1	山下 里香	(1)初回ガイダンス 授業の概要、評価の方法、授業の進め方等について説明する。  (2) 言語人類学とは: イントロダクション 言語人類学の中心的課題が、社会行為・社会的実践としての言語の探求にあることを理解する。	【予習】シラバスをよく読み、この授業を履修する場合の自らの目標について考えてくること。また、自らの日常生活を振り返りながら、人間にとって言語が担う役割について考えてくる。(90分) 【復習】講義と授業での議論を踏まえ、指定されたPDF資料を読み、言語人類学という学問領域の特徴について復習する。また、自ら考えたことや疑問点を整理しておく。(90分)
2	山下 里香	ことばと思考①(言語相対論・言語決定論) 言語相対論・言語決定論の概要をしり、説明できるようになる。	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。(90分)
3	山下 里香	ことばと思考②(相対的参照枠・絶対的参照枠)	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。(90分)
4	山下 里香	ヤコブソンのモデル①(コミュニケーションを構成する6つの要素)	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。 中間レポート課題に取り組む。(90分)
5	山下 里香	ヤコブソンのモデル②(メッセージの6つの機能)	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。 中間レポート課題に取り組む。(90分)
6	山下 里香	記号内容と記号表現(類像・指標・象徴)	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。 これまでの授業の振り返りを行い、中間テストの準備をする。(90分)
7	山下 里香	中間テスト 中間テストの解説 中間レポート課題の提出	【予習】中間テストおよび中間レポート課題提出の準備を行う。(90分) 【復習】中間テストで理解できなかった箇所の復習を行う。(90分)
8	山下 里香	会話分析、談話分析、ゴフマンの参与枠組み	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。(90分)

9	山下 里香	ことばの民族誌①(スピーチイベント・SPEAKING)	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。(90分)
10	山下 里香	ことばの民族誌②(スピーチイベント・SPEAKING)	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。(90分)
11	山下 里香	ことばの民族誌とコミュニケーションの実際	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。(90分)
12	山下 里香	言語イデオロギー	【予習】PDF資料を読み、キーワードの意味を自らの言葉で表現してみる。(90分) 【復習】講義と授業内での議論を踏まえ、キーワードと要点を自らの言葉でまとめる。 期末レポート課題の準備を行う。(90分)
13	山下 里香	期末レポート課題の準備	【予習】次週に発表できるように、期末レポート課題の準備を行う。(90分) 【復習】期末レポート課題の準備を行う。 期末テストの準備を行う。(90分)
14	山下 里香	期末レポート課題の発表	【予習】期末レポート課題の発表が行えるように、準備を行う。(90分) 【復習】期末テストの準備を行う。(90分)
15	山下 里香	期末テスト 期末テスト解説 まとめ	【予習】期末テストの準備を行う。 本授業で学んだことを踏まえて、多言語・多文化共生社会に生きる私たちが、現在直面している課題とは何かを考える。(90分) 【復習】多言語・多文化共生社会が直面している課題に言語人類学の知見がどう生かせるかをまとめる。(90分)

2020/02/21(金)13:24

授業科目名	環境と人間(環境コミュニケーション)		授業形態	講義
英語科目名	Environmental Communication		開講学期	後期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	中村 優子		ナンバリング	4209
科目担当者				
中村 優子				
授業の概要				
<p>本講義では、人間にとっての環境という問題に、文化、言語、コミュニケーションの視点からアプローチしてきた研究を概観する。具体的には、これまで文化と環境の関係に焦点を当てて行われてきた調査研究を比較対照し、それらが、1)環境から文化(環境→文化)、2)環境と言語(環境=言語)、3)文化・コミュニケーションから環境(環境←文化)という、大きく3つのアプローチに分類できることを学習する。以上を通して、文化によって多様な環境があること、環境がコミュニケーションを通じて形作られることを学び、環境の課題へどう向き合うかについて理解を深める。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然、生態系といった人間を取り巻く環境と人々の生活、ビジネス、文化のあり方との関係について理解する。</li> <li>2. 人間を取り巻く環境をめぐるコミュニケーションとはどのようなものか、またその問題点を理解する。</li> <li>3. 人間を取り巻く環境とメディアとの関係について理解する。</li> </ol>				
成績評価方法				
<p>学期末課題(30%)、研究ノート評価2回(40%)、平常点(30%)          平常点はクラス内の授業態度のみならず、アクティビティへの積極的な参加、予復習の課題のクオリティ、そして出席が含まれる。</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>積極的な授業への参加は、有意義な学習時間への貢献として評価される。欠席した場合は、クラスメイトに内容を確認し、次回授業に備えること。</p>				
テキスト・参考書				
<p>池田理知子(2013)『メディア・リテラシーの現在:公害/環境問題から読み解く』ナカニシヤ出版          * その他、必要に応じて、資料を配布したり、動画の上映等を行う。</p>				
オフィスアワー				
講義前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内を利用し、研究ノートの評価・補足解説は適宜行う。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	中村 優子	<p>ガイダンス  「環境」「自然」「コミュニケーション」、そして、それらのつながりについて。  人と自然との関わり、そしてその表現、言説は、宗教、祭礼、食事、衣服、芸術など多岐にわたる。「環境」と「自然」とはいかに違うか? 「環境」、「自然」と人間との関係をコミュニケーション、メディアという視点から議論する</p>	<p>【予習】(90分)「環境」「コミュニケーション」の定義についてまとめる。  【復習】(90分)授業内容をまとめる。</p>	
2	中村 優子	<p>メディアの読み方  メディア・スタディーズ、ヴィジュアル・カルチャー・スタディーズの視点</p>	<p>【予習】(90分)新聞やテレビ、映画、コマーシャルなどでよく耳にする言葉を10個挙げてくること。第3章を読んでくる。  【復習】(90分)授業内容をまとめる。</p>	
3	中村 優子	<p>「公害」と「環境」  第1章 公害から環境問題へ  授業内容: 「公害問題」と「環境問題」とはいかに違うか?</p>	<p>【予習】(90分) 第1章を読んで、不明な点などは自分なりに調べてくる。  【復習】(90分)授業内容をまとめる。</p>	



		「公害白書」と「環境白書」の読み比べ。 『複合汚染』	
4	中村 優子	「水俣病」 第7章、第8章 公害の表象 水俣に関する様々な言説に触れる(映像干渉を含む) 第1次産業と自然 *フィルム鑑賞を予定	【予習】(90分)水俣病について、自分なりに調べてまとめる。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。
5	中村 優子	「チッソ」 企業側の様々な言説に触れる 第2次産業と自然	【予習】(90分)第7章、第8章を読んで、不明な点などは自分なりに調べてくる。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。
6	中村 優子	原発とコミュニケーション1 3.11発生以前:アメリカ、チェルノブイリ 原発事故 *フィルム鑑賞を予定	【予習】(90分)第5章を読んで、不明な点などは自分なりに調べてくる。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。
7	中村 優子	原発とコミュニケーション 2 3.11以前と以降の国内での報道、言説の 違い	【予習】(90分)第6章を読んで、不明な点などは自分なりに調べてくる。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。
8	中村 優子	原発とコミュニケーション 3 日本政府の取り組み、報道、各国の 取り組み	【予習】(90分) 第9章、第10章を読んで、不明な点などは自分なりに調べてくる。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。 【レポート課題①】第1週から7週までの講義の内容をまとめ、ノート を提出すること。
9	中村 優子	国防と環境 1 第4章 基地問題と環境、その表象 米軍基地、自衛隊駐屯地と環境、住民 の居住環境の現状 *フィルム鑑賞を予定	【予習】(90分)第4章を読んで、不明な点などは自分なりに調べてくる。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。
10	中村 優子	国防と環境 2 海外の取り組みの事例、その表象、報 道の違い	【予習】(90分)諸外国における軍関連施設に関係する事例を探して くる。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。
11	中村 優子	広告と環境	【予習】(90分)環境と関連した広告をクラスでシェアできるよう見 つけてくる。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。
12	中村 優子	企業PRと環境 *フィルム鑑賞を予定	【予習】(90分)環境に関連した広報事例、パブリシティの事例を見 つけてクラスに持ち寄ること。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。
13	中村 優子	文学と環境 1 環境思想とネイチャーライティング ウィルダネスVS. ネイチャー	【予習】(90分)環境と文学とのつながりについて自分なりにまと めてくる。アメリカの歴史と環境思想(ネイチャー・ライティング)の 関係について調べてくること。 【復習】(90分)授業内容をまとめる。
14	中村 優子	【環境、コミュニケーション、持続可能 性】 誰の視点から、何を基点に「持続可能 性」を定義するか?	【予習】(90分)漫画、アニメの中で描かれる自然、環境の例を見 つけてクラスに持ち寄ること。 【レポート課題②】第8週から14週までの講義の内容をまとめ、ノ ートを提出すること。 【復習】(90分) 授業の振り返りを行う

15	中村 優子	まとめ・総合討論	<p>【レポート課題③】最終講義日の授業開始直後に、講義内で学習した環境とコミュニケーションに関するトピックに基づいて、リサーチ・ペーパーを提出すること。</p> <p>【予習・復習】(各90分) 授業の総振り返りを行う</p>

2020/02/21(金)16:20

授業科目名	文化としての記号(文化記号論)		授業形態	講義
英語科目名	Cultural Semiotics		開講学期	後期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	浅野 浩代		ナンバリング	4210
科目担当者				
浅野 浩代				
授業の概要				
<p>本講義では、〈自然と文化〉という人間を取り巻く全ての事象を理論的かつ包括的に理解・分析する枠組みとして、文化記号論を学習する。文化記号論とは、類像性、指標性、象徴性という原理を下敷きにし、人間の認識が立ち現れる仕組み、世界が主に言語を通して意味化／記号化される過程を審らかにするものである。授業では、文化記号論があらゆる学問分野を体系的に接合する理論であることを理解し、身の周りで起きる多様な文化現象を領域横断的に思考する基盤となりうることについて学習する。また必要に応じて、英語(文化)や他言語(文化)における具体的な記号現象を考察し、文化現象としての英語によるコミュニケーションへの理解を深め、異文化理解へのさらなる一助に繋げる。</p>				
授業の達成目標				
<p>1. 人間が認識できる全ての事象は、「文化現象である」という考え方について理解を深める。  2. 「文化現象である」とは、世界が意味を伴って現れること(記号化されること)であることを学習する。  3. 文化記号論の広範な射程を理解し、身の周りで生じる様々な事象だけではなく、異なる(言語・)文化圏で起きる全ての事象を「記号現象」として捉え、探求する姿勢を養う。</p>				
成績評価方法				
<p>通常点(20%)、中間レポート(／事例研究発表)(20%)、学期末レポート(60%)の総合点により最終評価をする。  通常点は単なる出席回数ではなく、授業への参加度合い、リアクション・ペーパーの内容を合わせて判断する。  3分の2以上の授業回出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。  成績評価基準: 1. 文化記号論で用いられる専門用語を適切に説明できるかどうか 2. 自分の身の周りの事象を文化記号論的視点から(全てを記号現象と捉えて)、的確に分析・考察することができるかどうか 3. 文化記号論的な姿勢をもって世界を捉える意義について、自分自身の考えを明確に表すことができるかどうか</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>毎回の授業に臨むにあたって、「授業時間外の指導等」の欄に記載された【予習・復習】を欠かさず行うよう心がけてほしい。  授業で行うディスカッション、グループ・ワーク、発表に、積極的に参加することを期待する。  スケジュールは履修人数や状況に応じて変更の可能性がある。  授業の運営上、90名を上限とする。</p>				
テキスト・参考書				
<p>教科書: 池上嘉彦(1984).『記号論への招待』岩波書店.  参考書: 有馬道子(2015).『日英語と文化の記号論』開拓社.  その他、授業にて適宜指示、配布をする。</p>				
オフィスアワー				
授業終了後に教室で質問を受け付ける。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内を利用し返却予定。適宜補足解説を行う。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	浅野 浩代	<p>ことばを捉え直す  : ことばから記号へ  1) 現代記号論における「記号」とは何かについて理解する  2) ことばについての新しい認識を深める</p>	<p>【予習】(90分)  教科書を用意し、教科書の以下のページ: (pp.2-7)と(pp.10-11)「ことばについての新しい認識」を読んでおく。  【復習】(90分)  本授業で学んだことをノートにまとめ直し、人間を取り巻く全ての事象を記号作用として考える意義について復習する。</p>	
		コミュニケーションの仕組み①	【予習】(90分)	

2	浅野 浩代	1)コミュニケーションの2つの型を学ぶ 2)「コード」、「コンテキスト」などの概念を覚える	教科書(pp.36-44)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
3	浅野 浩代	コミュニケーションの仕組み② 1)人間的なコミュニケーションと「仮説的推論」について学ぶ	【予習】(90分) 教科書(pp.54-62)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
4	浅野 浩代	コミュニケーションの仕組み③ 1)人間的なコミュニケーションと「仮説的推論」についての事例研究	【予習】(90分) 身の周りの事象を記述し、「仮説的推論」を用いて説明、発表ができるようにしておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
5	浅野 浩代	コミュニケーションの仕組み④ 1)人間的なコミュニケーションと「仮説的推論」についての事例研究	【予習】(90分) 身の周りの事象を記述し、「仮説的推論」を用いて説明、発表ができるようにしておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
6	浅野 浩代	記号と意味作用① 1)「記号表現」と「記号内容」について学ぶ 2)「記号表現」と「記号内容」は恣意的な関係であることを理解する:異なる(言語・)文化圏では、特に両者の関係が顕著となることを確認する	【予習】(90分) 教科書(pp.66-72)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
7	浅野 浩代	記号と意味作用② 1)「記号内容」は、「意味」なのか、「指示物」なのか、ということについて理解をする 2)「意味」と「指示物」の通常の関係性と逆転した関係性について確認する	【予習】(90分) 教科書の以下のページ:(pp.88, line9-92)と(pp.98, line12-101, line8)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
8	浅野 浩代	記号と意味作用③ 1)「記号表現」と「指示物」の関係:有契性と無契性について学ぶ 2)3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を深める	【予習】(90分) 教科書(pp.101, line9-108)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
9	浅野 浩代	記号と意味作用④ 1)3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を深める	【予習】(90分) 3つの原理:類像性、指標性、象徴性に関する指定資料を読み、身の回りの事象と照らし合わせて分析をしておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
10	浅野 浩代	記号と意味作用⑤ 1)3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を下敷きにして、事例研究を行う	【予習】(90分) 3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を下敷きにして、指定資料の分析をし発表に備えておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。

11	浅野 浩代	<p>「分節」と意味作用</p> <p>1)分節、コード、意味作用について理解を深める</p> <p>2)2つの異なるレベルでの意味作用:「表示義」と「共示義」について学ぶ</p> <p>記号と統辞</p> <p>1)統辞的なコードについて理解する</p> <p>2)統辞的な連鎖が1つの記号として記号内容を伴う(＝イディオム現象である)ことを、「表示義」・「共示義」との関連で捉える</p>	<p>【予習】(90分)</p> <p>教科書の以下のページ: (pp.109-112)と(pp.120, line4-123)、さらに(pp.123, line13-128)と(pp.155, line15-158, line10)を読み、重要な点を書き出しておく。</p> <p>【復習】(90分)</p> <p>本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。</p>
12	浅野 浩代	<p>テキストと「話す主体」</p> <p>1)「主体」としての人間が関わると、主体的に「仮説的推論」や「知識体系」、「コンテキスト」などの参照がなされる点について理解する</p> <p>2)「知識体系」:「フレーム」、「スキーマ」について学ぶ</p> <p>3)テキストの「ジャンル」をコードとして認識する</p> <p>4)3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を土台にし、事例を分析、考察する</p>	<p>【予習】(90分)</p> <p>教科書の以下のページ: (pp.178-181)と(pp.186, line10-189)を読み、重要な点を書き出しておく。</p> <p>【復習】(90分)</p> <p>本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。</p> <p>また、本日までの授業を振り返りながら学期末レポートの準備をする。</p>
13	浅野 浩代	<p>文化を記号として捉える</p> <p>1)様々な文化的対象を「記号」として捉え直す:衣服、身振り、宝石などの身近な対象を取りあげ、学生自身の経験と照らし合わせながら理解を深める</p> <p>2)種々の文化的対象の「文化的価値」を「記号内容」として理解する:文化的対象の「意味・価値づけ(＝記号化)」のなされ方が、異文化間ではそれぞれ異なることを体験的に理解する</p> <p>3)言語と文化の相同性を確認する:</p> <p>a) 民話、迷信、遊びなどの具体例から考察する</p> <p>b) 日本語と日本文化(衣・食・住など)、英語と英語圏の文化(衣・食・住など)の相同性についても確認をする</p> <p>c) 多様な文化的背景を有する人々同士で、これまでの言語(・文化)学習の経験の中で印象深かった言語と文化の相同的な類似性について話し合い、相互に新たな発見と学びを得る</p>	<p>【予習】(90分)</p> <p>教科書の以下のページ: (p.192)と(pp.216「なぜ言語なのか」の部分-225)を読み、重要な点を書き出しておく。</p> <p>【復習】(90分)</p> <p>本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。</p> <p>また、本日までの授業を振り返りながら学期末レポートの準備をする。</p>
14	浅野 浩代 (招聘講師担当予定)	<p>様々な文化的対象を「記号」と捉えた事例研究</p> <p>1)ここまで学んだ概念についての復習をする</p> <p>2)グループで指定資料を分析し、発表をする</p> <p>a) 学生自身の異文化間での経験をもとに、実際のコミュニケーションにおける「衣・食・住」などにかかわる文化的対象を「記号」として考察する / b) 欧米やアジアからの帰国子女や就労者、留学生などをゲストティーチャーとして招き、出身(・出生)地の文化と日本文化との比較をしながら生活体験談を共有して</p>	<p>【予習】(90分)</p> <p>事例研究のための指定資料(第13回授業で指示)に目を通し、自分なりの分析・記述をしておく。</p> <p>【復習】(90分)</p> <p>本日までの授業を振り返りながら学期末レポートを執筆する。</p>

		もらう	
15	浅野 浩代	文化記号論を体験的にまとめる 1) これまでの授業を振り返り、文化記号論の基本的な姿勢を再確認する 2) 共有してきた様々なコミュニケーション現象を記号論的視点から考察しながら、多様な文化を体験的に理解する 3) 今後、異文化社会を理解する際、文化記号論の知見がどのように活かされるのかについて、具体的な場面を想定しつつクラスメイトと話し合う	<b>【予習】(90分)</b> 本日までの授業を振り返りながら学期末レポートを執筆する。 <b>【学期末レポート課題】</b> これまで学んだ概念を用いて、身近な事例を取り上げ、その現象を理論的に記述・分析すること。それをレポートとして提出すること。 <b>【復習】(90分)</b> これまでの授業を振り返り、全ての事象を「記号」として捉えることでもたらされた、新たな世界の見方について確認をする。

2020/08/04(火)14:27

授業科目名	文化と認知		授業形態	講義
英語科目名	Culture and Cognition		開講学期	後期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	原 和也		ナンバリング	4211
科目担当者				
原 和也				
授業の概要				
<p>個人のものの見方や考え方は、各自が成長過程で過ごしてきた文化や、現在生活している文化的な環境に影響を受けている。本講義では、個人の内面的な活動である認知・情意面に焦点を当て、自己や対人関係のとらえ方、価値観や世界観、思考様式、行動にどのような影響を及ぼすのかについて主要な理論及び研究成果を学び、考察を深めていく。授業は担当教員による解説、自己分析課題、ディスカッションにより構成され、受講生の積極的な参加が求められる。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化と認知の関連する基礎概念について理解する</li> <li>2. 知覚の仕方や思考法における文化の影響について認識をする</li> <li>3. 自己の個人内及び対人コミュニケーション様式について客観視する能力を育成する</li> </ol>				
成績評価方法				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 期末試験(50%)</li> <li>2. レポート(30%)</li> <li>3. フィードバック・ノート(20%)</li> </ol>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他の受講生及び担当教員の迷惑となる遅刻及び私語をしないこと</li> <li>2. スマートフォンや携帯電話は電源を切り、鞆の中にしまい受講すること</li> </ol>				
テキスト・参考書				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト:プリント教材を配布する</li> <li>2. 参考書:異文化間コミュニケーション論、文化心理学、社会心理学の文献</li> </ol>				
オフィスアワー				
別途公開している教員のオフィスアワーを確認すること。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
課題の返却及びフィードバックは、授業内で行う(試験は個別対応)。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	原 和也	初回オリエンテーション (1) 授業計画を配布し、授業の進め方を説明する (2) 「文化ともの感じ方・考え方」についてグループ分けをし、ディスカッションを行う	予習:これまで生まれ育った文化を振り返り、自分のものの考え方と与えている影響について考える(90分) 復習:授業内容を再度確認し、各回への問題意識を整理する(90分)	
2	原 和也	文化とは何か (1) 文化の定義、構成要素、基本的な特徴 (2) 共文化の特徴	予習:文化の主要な定義と特徴を、異文化コミュニケーション関連の書籍からまとめる(90分) 復習:授業で扱った主要モデルを基盤にして、自己の思考パターンについてまとめる(90分)	
3	原 和也	価値観・世界観 (1) 文化が個人の価値観の形成過程に与える影響 (2) 個人の世界観の根底にある文化の特徴	予習:価値観と世界観の定義を調べ、身近な事例をまとめる(90分) 復習:授業で扱った分類法をもとに、自己の文化が及ぼす影響についてまとめる(90分)	

4	原 和也	カルチャー・ショックと異文化適応 (1) カルチャー・ショックの定義、主要モデル (2) カルチャー・ショックと自己成長	予習:これまで経験したカルチャー・ショックを、時系列的にまとめる (90分) 復習:授業で扱った各種モデルをもとに、自己の経験を振り返り、再分析をする (90分)
5	原 和也	文化とステレオタイプ (1) ステレオタイプの形成、判断基準、引き起こす問題 (2) 偏見の形成要因、機能、解決策	予習:自分が抱いているステレオタイプや偏見を列挙し、カテゴリー化する (90分) 復習:自己のステレオタイプや偏見の生成過程を整理し、授業で扱った主要分類法に基づき、整理する (90分)
6	原 和也	文化と偏見 (1) 偏見の形成要因と機能 (2) 偏見の解決	予習:自分がこれまでに抱いてきた偏見を列挙し、その原因を考える (90分) 復習:偏見の解消、解決に向けて、認知、情意、行動面から実践できることを考える (90分)
7	原 和也	コミュニケーション・モデル構築【課題の指示、用紙の配布】 (1) コミュニケーション・モデルの特徴と、代表的なモデル (2) 異文化コミュニケーションの分野におけるコミュニケーション・モデル	予習:日常のコミュニケーションの事例をひとつ選び、図式化する (90分) 復習:コミュニケーションの構成要素を踏まえて、モデル化する (90分)
8	原 和也	個人内コミュニケーション・プロセス 知覚・認知 (1) 個人内コミュニケーションの定義、思考プロセス、モデル (2) 知覚と認知のメカニズム	予習:自己の日常の思考過程を図式化する (90分) 復習:個人内コミュニケーション・モデルをもとに、自己の情報処理過程を分析する (90分)
9	原 和也	文化と記号 (1) 言語と世界観、思考の関係 (2) サピアーウォーフの仮説	予習:日本語と英語における、ものの見方、考え方の違いを整理する (90分) 復習:授業で扱った事例をもとに、さらなる事例を挙げる (90分)
10	原 和也	自己と人間関係 (1) etic・emic (2) 文化的自己観	予習:個人主義、集団主義的なものの考え方や行動についてまとめる (90分) 復習:自己の文化的自己観に基づき、他者との関係性について考察を深める (90分)
11	原 和也	文化と認 1. 包括的思考と分析的思考知 2. 研究事例の紹介と考察	予習:自分が生まれ育った文化の人たちに顕著な考え方や感じ方の特徴をまとめる (90分) 復習:授業で紹介した実験結果をもとに、自己の認知・情意面の傾向をまとめる (90分)
12	原 和也	文化と発達 (1) 発達に関する心理・文化モデル (2) 親子関係と発達における期待	予習:幼少期を思い出し、どのように育てられたか、大人から何を期待されていたかを振り返る (90分) 復習:授業で扱ったモデルをもとに、今後子ども達とどのように係っていくのかについて考える (90分)
13	原 和也	文化と共感能力 (1) 共感、博愛主義、向社会的行動 (2) 思いやり意識	予習:他者の気持ちが理解できる事例、他者のための行動の事例をまとめる (90分) 復習:授業で行った自己分析をもとに、自らの他者への行動について内省をする (90分)
14	原 和也	授業内プレゼンテーション (1) 各自が構築したコミュニケーション・モデルについては発表し合う (2) 他者の発表に対して批評する	予習:構築したモデルを発表できるよう、準備をする (90分) 復習:他者からのコメントをもとに、モデルの修正を行う (90分)



15	原 和也	授業の総まとめと期末試験 (1) 授業で扱った基礎概念、主要理論 の理解度 (2) 実践への応用	予習:最終試験への復習 (120分) 復習:授業全体を振り返り、今後の異文化理解とコミュニケーション の質の向上について考える (60分)

2020/02/26(水)10:24

授業科目名	コミュニケーション(通訳)		授業形態	講義
英語科目名	Communication: Interpreting		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	平塚 ゆかり		ナンバリング	4212
科目担当者				
平塚 ゆかり				
授業の概要				
通訳は古来より異文化間, 異言語間の意思伝達のため翻訳に先駆けて行なわれてきた。通訳とはいかなる行為なのかを探るため、本講義ではまず日本と世界における通訳の歴史を繙き、これまで通訳が果たしてきた役割を振り返る。次に、現代社会における通訳を①異文化コミュニケーションと通訳、②職業としての通訳 ③通訳教育 ④通訳研究 ⑤グローバル化と通訳 などの各アプローチから、その役割と意義、現状と課題について議論を行なう。				
授業の達成目標				
1. 通訳とは、単なる言語の置き換えではなく「異文化コミュニケーション」としての営為であることを理解、説明できる。 2. 通訳を体系的・理論的に理解し、自分の言葉で説明できる。 3. 通訳の果たす役割と日本の通訳の現状を把握し、その課題について思索する。				
成績評価方法				
授業への出席、参加・貢献度(25%)、リアクションペーパー(25%)学期末レポート試験(50%)				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
「授業時間外の指導等」欄の指示をよく読み、毎回の授業には適切な準備を行なったうえで参加すること。授業において積極的な発言や参加を歓迎する。				
テキスト・参考書				
教科書: 鳥飼玖美子(編著)(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房。 毎回の授業内容に関する書籍や論文、授業の際に指示する。				
オフィスアワー				
別途公開している教員のオフィスアワーを確認すること。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却予定。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	平塚 ゆかり	通訳とは何か 通訳訓練方法、通訳に必要な準備とは 通訳訓練体験を通して通訳という営為を知る	【予習】初回の授業までに教科書の「はじめに」(pp. i-ii)と「翻訳と通訳を学ぶにあたって必要な用語」(p. iii)を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)	
2	平塚 ゆかり	通訳の種類	【予習】教科書の「同時通訳／逐次通訳(ウイスピーング／サイト・トランスレーション)」「対話通訳／手話通訳」(pp. 52-54)ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)	
3	平塚 ゆかり	職業としての通訳	【予習】教科書の「会議通訳」「ビジネス通訳」「放送通訳」「司法通訳／法廷通訳」「コミュニティ通訳(医療／教育)」「通訳案内士(通訳ガイド)」(pp. 56-67)ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)	
4	平塚 ゆかり	新大陸の通訳者 グローバル化時代における通訳 と異文化コミュニケーション、多言語社会としての日本における通訳	【予習】教科書の「翻訳通訳と異文化コミュニケーション」(pp. 2-3)「グローバル化と通訳」(pp. 10-11)「日本の多言語化とコミュニティ」(pp. 28-29)「新大陸の通訳者」(pp. 30-31)ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)	

5	平塚 ゆかり	会議通訳から同時通訳の誕生 ニュルンベルグ裁判と東京裁判における通訳	【予習】教科書の「会議通訳の誕生:パリ講和会議」「同時通訳の誕生:ニュルンベルグ裁判」(pp. 34-37)、「東京裁判」(pp. 22-23)「戦後外交と同時通訳」「アポロ宇宙中継と同時通訳」(pp. 24 -27)、ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
6	平塚 ゆかり	通訳学とは何か	【予習】教科書のXII「通訳学」(pp.156-163)並びに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
7	平塚 ゆかり	司法通訳の現状 司法通訳者である外部講師を招き、司法通訳についての講義を聞く	【予習】課題図書を読んで参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
8	平塚 ゆかり	正確な通訳とは	【予習】教科書の「3種類の翻訳」(pp.4-5)、「等価」(pp. 118-119)、「普遍的特性」(pp. 132-133)、「言語人類学」(pp.164-165)、「語用論」(pp. 168-169)ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
9	平塚 ゆかり	中国の通訳史	【予習】教科書の「中国の通訳」(pp. 32-33)、「中国通訳史と仏典翻訳」(pp. 40-41)、「中国の翻訳論: 嚴復の『信达雅』」(pp. 148-149)を読み、疑問点や感想を授業で述べられるようにまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
10	平塚 ゆかり	日本の通訳史	【予習】教科書の「古代日本の通訳」(pp. 14-15)、「長崎通詞」(pp. 16-17)、事前に配布した文献を読み、疑問点や感想を授業で述べられるようにまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
11	平塚 ゆかり	日本の通訳:現状と課題	【予習】指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
12	平塚 ゆかり	通訳者の役割と規範	【予習】教科書の「通訳者の役割」、(pp. 46-47)、「翻訳者・通訳者の倫理規定」「透明性、中立性」(pp. 48-51)を読み、疑問点や感想を授業で述べられるように準備しておく。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
13	平塚 ゆかり	通訳教育の現状と課題 通訳学校の講師を招き、通訳教育の現場についての講演を聞く	【予習】教科書の「適正と資格」(pp. 94-95)、「通訳者コンピタンスと訓練」「高等教育機関での翻訳者・通訳者養成」(pp. 98-101)を読み、疑問点や感想を授業で述べられるようにまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
14	平塚 ゆかり	後半のまとめ	【予習】後半のトピックについてフリーディスカッションを行なうので、適宜準備しておくこと。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
15	平塚 ゆかり	学期のまとめ	学期末レポート提出(レポートのテーマや提出期限等の詳細は授業内で指示する)(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)

2020/02/21(金)15:21

授業科目名	コミュニケーション(翻訳)		授業形態	講義
英語科目名	Communication: Translation		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	齊藤 美野		ナンバリング	4213
科目担当者				
齊藤 美野				
授業の概要				
<p>「翻訳」は、A言語をB言語へ変換するだけの単純な行為ではなく、異なる言語を用い、文化や社会、政治、思想なども異にする人たちの間を繋ぐ営み、すなわちコミュニケーションである。そのような営みである翻訳について明確に理解することを目指し、翻訳の歴史、現代社会における役割、さまざまなジャンル、訳出法、さらに翻訳について考えるための翻訳学の諸理論を学習する。授業は、講義を中心に進めるが、グループ・ワークや個人で翻訳作品の分析に取り組み、発表するなど、受講生が積極的に参加できる機会を随時用意する。</p>				
授業の達成目標				
<p>1. 翻訳を異文化を繋ぐコミュニケーションと捉えた上で、翻訳の歴史や役割、ジャンル、訳出法について理解、説明できる。</p> <p>2. 翻訳について考えるための基本的な翻訳学の理論について理解し、説明できる。</p> <p>3. 理論を用いて翻訳テキストの分析を行える。</p>				
成績評価方法				
<p>授業内の活動への参加・貢献度(10%)、小テスト(講義・教科書から学んだ点の理解度)×2回(30%)、レポート(翻訳理論の理解度、理論を用いた分析ができるか)(60%)の合計点により最終評価を行う。</p> <p>3分の2以上の授業回出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>【履修者数の制限】履修者数の上限を70名とする。履修希望者が左記の上限を上回る場合、初回授業中に、上の学年の学生を優先したうえで抽選を行う。履修希望者は、初回授業に必ず出席すること。</p> <p>【課題・準備】「授業時間外の指導等」欄をよく読み、毎回の授業のために必要な準備を欠かさず行うことを期待する。</p> <p>授業で学んだ「翻訳」と自身の生活との関わりに意識を向けて、見つけた「翻訳」をレポートの題材とする。</p>				
テキスト・参考書				
教科書: 鳥飼玖美子(編著)(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房				
オフィスアワー				
初回授業にて告知する。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
小テストは採点后、授業にて返却する。レポートの返却を希望する者には後期開始時に返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	齊藤 美野	異文化コミュニケーションとしての翻訳 1)「翻訳」にはどのようなジャンルがあり、私たちの生活とどのように関わっているのか学ぶ 2)「文化」「コンテキスト」等の概念を理解した上で翻訳との関連を考える	<p>【予習】翻訳にはどのような種類があるか、身近な例を探し、書き出しておく(90分)</p> <p>【復習】身の回りにある翻訳を、ジャンル、異文化コミュニケーション、コンテキスト等の観点から分析する(90分)</p>	
2	齊藤 美野	翻訳学とは何か 1) 翻訳学の基本用語を覚える 2) 翻訳を研究する学問分野である翻訳学の研究対象を概観する	<p>【予習】教科書の「翻訳と通訳を学ぶにあたって必要な用語」(pp. ii i-iv)、「翻訳学の「マップ」」(pp. 114-115)を読み、大切な点を書き出しておく(90分)</p> <p>【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直す(90分)</p>	
3	齊藤 美野	翻訳の歴史 1) 歴史上、翻訳が果たした重要な役割について考える	<p>【予習】教科書の「翻訳と明治の近代化①」「翻訳と明治の近代化②」(pp. 18-21)を読み、大切な点を書き出しておく(90分)</p> <p>【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまと</p>	

		2) 日本の明治期における、翻訳と近代化の関連を探る	め直す(90分)
4	齊藤 美野	現代社会における翻訳 1) 現代において翻訳が担う役割を確認する 2) 翻訳者の仕事に対する態度、設定する狙い、選択する訳出法などを学ぶ	【予習】教科書の「翻訳者の役割」(pp. 44-45)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
5	齊藤 美野	古典的翻訳理論 1) 紀元前から論ぜられてきた翻訳理論の初期のものを確認する。 2) 古典的理論と現在の翻訳研究の問題意識の共通点を探る	【予習】教科書の「西洋の古典的翻訳理論」(pp. 112-113)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直す(90分)
6	齊藤 美野	小テスト1 現代の翻訳理論: 等価 1) 起点・目標テキスト間の関係性を捉えるための「等価」概念を学ぶ 2) 等価概念の翻訳研究における重要性を考える	【予習】小テスト1に備える(出題範囲等は、第5回授業にて告知予定)(90分) 【復習】教科書の「等価」(pp. 118-119)を読みながら、本日の授業の復習をする(90分)
7	齊藤 美野	ゲスト講義 北代美和子氏(翻訳家, 東京外国語大学講師) 「キツネは自分をなんと呼ぶ? - Style, voice, point of view」	【予習】指定資料を読み、指示に従い準備しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直す(90分)
8	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 等価(事例研究) 1) 「等価」概念について復習する 2) 「等価」概念を用いた分析をグループで行い、結果を報告する	【予習】事例分析のための指定資料を読み、自分なりの考察をしておくこと(90分) 【復習】前回の復習としてまとめた内容に、事例研究の結果を書き加える(90分)
9	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 機能主義的アプローチ 1) 「スコpos」と「テキストタイプ」概念について理解する 2) 翻訳の目的やジャンルと訳出法の関係を考える	【予習】教科書の「機能主義的アプローチ(スコpos理論)」 「翻訳のテキストタイプ」(pp. 122-125)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】次回の分析に備えて「スコpos」「テキストタイプ」について自分なりにまとめておく(90分)
10	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 機能主義的アプローチ(事例研究) 1) 機能主義的アプローチの復習をする 2) 「スコpos」及び「テキストタイプ」概念を用いた分析をグループで行い、結果を報告する	【予習】事例分析のための指定資料を読み、自分なりの考察をしておく(90分) 【復習】前回の復習としてまとめた内容に、事例研究の結果を書き加える(90分)
11	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 異質化と受容化 1) 「異質化」「受容化」概念を理解する 2) 翻訳者の「不可視性」について考える	【予習】教科書の「異質化と受容化(翻訳者の不可視性)」(pp. 136-137)を事前に読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】授業を振り返りながら、レポート執筆の準備をする(90分)
12	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 異質化と受容化(事例研究) 1) 「異質化」「受容化」概念の復習をする 2) 「異質化」「受容化」概念を用いた分析をグループで行い、結果を報告する	【予習】事例分析のための指定資料を読み、自分なりの考察をしておく(90分) 【復習】授業を振り返りながら、レポート執筆の準備をする(90分)
13	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 多元システム理論 1) 「多元システム理論」について理解する 2) 社会的コンテキストと翻訳者の態度、訳出法の選択、翻訳の社会的地位の関わりについて考える	【予習】教科書の「多元システム理論」(pp. 128-129)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】授業を振り返りながら、レポート執筆の準備をする(90分)
		小テスト2	

14	齊藤 美野	<p>現代の翻訳理論：多元システム理論                      (事例研究)</p> <p>1)「多元システム理論」の復習をする                      2)「多元システム理論」を用いた分析をグループで行い、結果を報告する</p>	<p>【予習】小テスト2に備える(出題範囲等は、第13回授業にて告知予定)(90分)                      【復習】レポートを執筆する(120分)</p>
15	齊藤 美野	<p>レポートの報告とまとめ</p> <p>1)レポート用に行った事例研究の内容を報告する                      2) 本授業で学んだ概念や理論を振り返り、多様な文化・歴史的コンテキストと翻訳に関する問題意識の変遷との繋がりを考え、各時代・文化においてコミュニケーションとしての翻訳がどのように機能してきたか確認する</p>	<p>【予習】レポートの内容を報告する準備を行う(レポート・報告の詳細は、授業内で説明する)(90分)                      【復習】クラスメイトの発表から知った事柄を、本授業で学んできた理論等と結びつけながら振り返り、翻訳に対し新しく得た視点をノート等にまとめる(90分)</p>

2020/02/21(金)16:52

授業科目名	コミュニケーション(医療)		授業形態	講義
英語科目名	Communication: Health Services		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	大野 直子		ナンバリング	4214
科目担当者				
大野直子				
授業の概要				
<p>本講義の目的は、医療とコミュニケーションの理論と実践方法を体系的に習得することである。医療とコミュニケーションは、医療従事者相互、医療従事者と患者間、患者相互等における医学・医療分野に関係した知識や情報のやりとりを意味する。医学・医療において、どのようなコミュニケーションが行われているかを講義により学習する。生命に関わる職業人となることを念頭におき、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身に付け、信頼関係を築き、さらに長期にわたってそれらを向上させる知識を身に付ける。本講義では、医療に関する知識・情報を正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらうために必要なコミュニケーションの理論体系、コミュニケーションの実務的方法論等を医療者、患者の双方の視点から身に付ける。少人数によるグループワークにより、患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を身に付ける。本講義の受講によって、医療とコミュニケーションを様々な立場から概観し、またコミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識とスキルを習得することができる。</p>				
授業の達成目標				
<p>本授業では、下記の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療と医療制度の歴史の概要を説明できる。</li> <li>・医療関連の最新トピックについて、知識を得た上で議論できる。</li> <li>・患者-医療者間、医療者同士、医療者-一般市民等の様々なコミュニケーションを分析できる。</li> <li>・医療コミュニケーションの諸問題に関して、知識を得た上で議論できる。</li> </ul>				
成績評価方法				
出席(20%)、授業内ディスカッション参加度(30%)、発表(25%)、期末試験(25%)				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>本講座はグループワークを多く含むため、積極的な関与と前向きな態度が望ましい。          進度により授業内容を変更することがある。その際には、授業内の指示に従うこと。</p> <p>※履修者上限:30名前後とする。超過した場合には抽選を行う。</p>				
テキスト・参考書				
オリジナルテキストを使用 (参考書)Communicating About Health: Current Issues and Perspective (5th edition) by Athena du Pre				
オフィスアワー				
月・火)時間帯はメールで応相談				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内やJ-Passを使用し適宜返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	大野 直子	Chapter 1: Introduction	<p>【復習】下記について資料の関連する場所を読み、不明点を調査すること(90分)。            Chapter 1 Introduction            ・Definition of health communication            ・Medical models            ・Current Issues</p>	
2	大野 直子	Chapter 2: The Landscape for Health Communication	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。            【復習】下記について資料の関連する場所を読み、内容を確認すること(90分)。            Chapter 2, The Landscape for Health Communication</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>•History of health care</li> <li>•Managed care</li> <li>•Health care reform</li> </ul>
3	大野 直子	Chapter 2関連: 米国医療保険に関連する映画鑑賞・討論	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。 【復習】授業内討論の結果としての、自分の意見をまとめる(90分)。</p>
4	大野 直子	Chapter 2関連: 医療保険制度に関するディベート実践	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。 【復習】授業内討論の結果としての、自分の意見をまとめる(90分)。</p>
5	大野 直子	Chapter 4: Patient Perspectives	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。 【復習】下記について資料の関連する場所を読み、内容を確認すること(90分)。 Chapter 4, Patient Perspectives</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Socialization</li> <li>•Satisfaction</li> <li>•Cooperation/consent</li> <li>•Informed consent</li> <li>•Illness and identity</li> </ul>
6	大野 直子	Chapter 5: Caregiver Perspectives	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。 【復習】下記について資料の関連する場所を読み、内容を確認すること(90分)。 Chapter 5, Caregiver Perspectives</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Medical education</li> <li>•Satisfaction/burnout</li> <li>•Managing medical mistakes</li> <li>•Multidisciplinary teamwork</li> <li>•Privacy</li> </ul>
7	大野 直子	Chapter4,5関連: 医療者-患者のコミュニケーションに関連するグループワーク	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。 【復習】授業内討論の結果としての、自分の意見をまとめる(90分)。</p>
8	大野 直子	Chapter4,5関連: 医療者-患者のコミュニケーションに関連するグループワーク/映画鑑賞	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。 【復習】授業内討論の結果としての、自分の意見をまとめる(90分)。</p>
9	大野 直子	Chapter 9: eHealth, mHealth, and Telehealth	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。 【復習】下記について資料の関連する場所を読み、内容を確認すること(90分)。 Chapter 9, eHealth, mHealth, and Telehealth</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Theories of online information seeking</li> <li>•Advantages and disadvantages of technology</li> <li>•Forecast for the future</li> </ul>
10	大野 直子	Chapter 11: Health Images in the Media	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。 【復習】授業内討論の結果としての、自分の意見をまとめる(90分)。</p>
		ヘルスマッセージを伝える広告を作成す	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。 【復習】下記について資料の関連する場所を読み、内容を確認すること(90分)。 Chapter 11, Health Images in the Media</p>



11	大野 直子	る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Tobacco</li> <li>・Alcohol</li> <li>・Standards of beauty</li> <li>・Media literacy</li> <li>・Is Hollywood responsible?</li> </ul>
12	大野 直子	ヘルスメッセージを伝える広告を作成する :コンペティション	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。                  【復習】授業内討論の結果としての、自分の意見をまとめる(90分)。</p>
13	大野 直子	Chapter 6: Diversity and Health Care	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。                  【復習】下記について資料の関連する場所を読み、内容を確認すること(90分)。                  Chapter 6, Diversity and Health Care</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Health literacy</li> <li>・Social status, gender, sexual orientation, race, language, disabilities, age</li> </ul>
14	大野 直子	Chapter 7: Cultural Conceptions of Health and Illness	<p>【予習】授業内容に記載されているキーワードを含む文献をインターネットで検索し、読んでおくこと(90分)。                  【復習】下記について資料の関連する場所を読み、内容を確認すること(90分)。                  Chapter 7, Cultural Conceptions of Health and Illness</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Health as organic condition or harmony</li> <li>・Health as stigma or curse</li> <li>・Health as expanded consciousness</li> <li>・Patient caregiver roles</li> <li>・Paternalism</li> </ul>
15	大野 直子	まとめ、期末試験	<p>【予習】期末試験の準備(120分~)。                  【復習】これまで配布された資料全体を読み、内容を確認すること(90分)。</p>

2020/02/21(金)11:23

授業科目名	文化を訳す	授業形態	講義
英語科目名	Translating Culture	開講学期	前期
対象学年	4	単位数	2
科目責任者	中村 優子	ナンバリング	4215
科目担当者			
中村 優子			
授業の概要			
異なる文化との出会いには、必ず言語を介した文化の解釈、理解、すなわち「文化を訳す」という行為が伴う。本講義では「文化」とは、そして「異文化」とは何かという問いを起点に、異文化との接触が行われた時に現れてくると考えられる課題や現象を、様々な素材、表象を対象に考察し、相互理解に必要なものとは何かを探る。			
授業の達成目標			
1. 「文化の翻訳」に関わる主要な議論や理論について説明できる。 2. 異なる文化間、言語間に横たわる、様々なコミュニケーション上の問題について、論理的、中立的な視点から解決の一助となるアプローチを提示する知識を身につける。 3. 異なるメディアやオーディエンスは、「文化の翻訳」にどのような違いを生むかについての知識を身につける。			
成績評価方法			
学期末課題(40%)、研究ノート評価1回(30%)、平常点(30%) 平常点にはクラス内の授業態度のみならず、アクティビティへの積極的な参加が、「授業への貢献」として高く評価される。予復習の課題のクオリティは研究ノートの評価対象となる。出席は言うまでもなく、評価全体のベースと位置づけられる。			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)			
初回授業には必ず出席すること。初回に限らず、欠席した場合は、クラスメイトに内容を確認し、次回授業に備えること。 クラスの状況や受講者の要望により、講義計画が一部変更される場合がある。			
テキスト・参考書			
テキスト: 丸山圭三郎(2008)『言葉とは何か』筑摩書房 参考書: Munday, J.(2008) Introducing Translation Studies. (2nd Ed.) NY: Taylor & Francis Group, LLC. 真島真一郎(編)(2005)『だれが世界を翻訳するのか』人文書院			
オフィスアワー			
講義前後とする。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法			
研究ノートや提出を指示した課題は、適宜、授業内での返却、補足解説を行う。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】			
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)
1	中村優子	初回ガイダンス 講義概要、目標、授業計画等について説明する 文化とは何か? 自文化を分析し、異なる文化との出会いについて、自らの経験を振り返りながら、その「解釈」について考える。	【予習】(90分)シラバスをしっかりと読んでくること。「文化」とは何かについて考えをまとめてくる。 【復習】(90分)「自文化」と「異文化」とは何か? またそれを解釈するという行為について、クラス内でのディスカッションを踏まえ、その概念、問題点をまとめておく。
2	中村優子	「訳す」という行為 「通訳」と「翻訳」の主要な類似点、相違点について考え、その行為をする場合に考慮すべき様々な側面について論じる。	【予習】(90分)「通訳」と「翻訳」との違いについてできる限り挙げ、まとめてくる。 テキストの「言葉と文化」の章を読んでくる。 【復習】(90分)授業を振り返り、「通訳」と「翻訳」との類似点、相違点をまとめ、訳す行為を取り巻くコンテキストについてまとめる。

3	中村優子	翻訳の種類 「訳す」という行為は、言語間だけに留まらない。その多様な「訳す」という行為のあり方について考える。	【予習】(90分)「訳す」という行為にはどのようなものが考えられるか、自分なりにまとめて発表できるようにする。 テキストの「言葉と文化」の章を読んで、内容をまとめておく。 【復習】(90分)「訳す」行為の種類について分類でき、その特徴を説明できるように復習しておく。
4	中村優子	翻訳論・通訳論 ① 様々な翻訳論を解説し、考察する。	【予習】(90分)翻訳をする場合に考えられる方法について調べて、まとめてくる。テキストの「言葉と文化」の章を読んで、内容をまとめておく。 【復習】(90分)翻訳についての理論を分類し、説明できるように復習しておく。
5	中村優子	翻訳論・通訳論 ② 様々な通訳論を解説し、考察する。	【予習】(90分)通訳をする場合に考えられる方法について調べて、まとめてくる。 テキストの「言葉と文化」の章を読んで、内容をまとめておく。 【復習】(90分)通訳についての理論を分類し、説明できるように復習しておく。
6	中村優子	オリエンタリズムとポスト・コロニアリズム  オリエンタリズムとは、ポスト・コロニアリズムとは何かについて事例を交えて考察する。	【予習】(90分)「オリエンタリズム」とは何か、また「ポスト・コロニアリズム」とは何かについて調べ、まとめてくること。 テキストの「10 言葉の意味と価値」を読む。 【復習】(90分)「オリエンタリズム」「ポスト・コロニアリズム」と「訳す」という行為との関係性について、その中に潜む課題も含め、講義内容をまとめておくこと。
7	中村優子	グローバリゼーションと「訳す」という行為	【予習】(90分)IT革命以降のネット社会におけるグローバル化の中で「訳す」という行為はどのような広がりを見せ、課題を抱えているかについて調べ、まとめてくる。 テキストの「10 言葉の意味と価値」を読んで、内容をまとめておく。 【復習】(90分)グローバル化の中で「翻訳」「通訳」という行為はどのようなニーズによって広がりを見せ、様々な課題を抱えているかについて、講義の内容を踏まえ、まとめておくこと。
8	中村優子	文学と翻訳	【予習】(90分)これまでの講義を踏まえ、文学作品の中で、翻訳上の問題や翻訳論がみられるものをひとつ選んで議論できるよう準備すること。 【復習】(90分)講義内に議論した点をまとめ、復習しておくこと。
9	中村優子	ニュースと通訳・翻訳	【予習】(90分)これまでの講義を踏まえ、ニュースの中で、通訳・翻訳上の問題や通訳論・翻訳論がみられるものをひとつ選んで議論できるよう準備すること。 【復習】(90分)講義内に議論した点をまとめ、復習しておくこと。
10	中村優子	広告翻訳	【予習】(90分)これまでの講義を踏まえ、広告作品の中で、翻訳上の問題や翻訳論がみられるものをひとつ選んで議論できるよう準備すること。 【復習】(90分)講義内に議論した点をまとめ、復習しておくこと。 【ノート提出】第1週から10週までの講義の内容をまとめ、ノートを提出すること。
11	中村優子	PRと翻訳	【予習】(90分)これまでの講義を踏まえ、企業のPR、特にウェブサイトなどの中で、翻訳上の問題や翻訳論がみられるものをひとつ選んで議論できるよう準備すること。 【復習】(90分)講義内に議論した点をまとめ、復習しておくこと。
			【予習】(90分)これまでの講義を踏まえ、アニメ、マンガの中で、翻訳上の問題や翻訳論がみられるものをひとつ選んで議論できるよう

12	中村優子	アニメ、マンガと翻訳	準備すること。 【復習】(90分)講義内に議論した点をまとめ、復習しておくこと。
13	中村優子	映画・字幕翻訳	【予習】(90分)これまでの講義を踏まえ、映画・字幕翻訳上の問題や翻訳論がみられるものをひとつ選んで議論できるよう準備すること。 【復習】(90分)講義内に議論した点をまとめ、復習しておくこと。
14	中村優子	アニメ、映画・字幕翻訳 事例鑑賞	【予習】(90分)映画・字幕翻訳を「文化を訳す」という観点から、批判的に鑑賞するポイントをまとめておき、ディスカッションに備える。 【復習】(90分)講義内に議論した点をまとめ、復習しておくこと。
15	中村優子	まとめ・総合討論	【予習】(90分)講義内で取り上げた文学、ニュース、広告、PR、アニメ・マンガ、映画のいずれかの媒体を取り上げ、「文化を訳す」という観点からみた問題点についてディスカッションできるよう備える。 【復習】(90分)講義内に議論した点をまとめ、復習しておくこと。

2020/02/21(金)15:25

授業科目名	英語翻訳実践		授業形態	演習
英語科目名	Practical English Translation		開講学期	前期
対象学年	4		単位数	1
科目責任者	齊藤 美野		ナンバリング	4216
科目担当者	齊藤美野			
授業の概要	<p>本講義は、異文化コミュニケーションの視点から、翻訳の役割と可能性について探求し、社会に資するに十分な翻訳の基礎的な知識とスキルを身に付けることを目的とする。</p> <p>授業では、様々なジャンルの翻訳に取り組むなかで、翻訳学の理論や概念に触れ、多様化する翻訳のありかたや役割を考察する。原文を読み解き、翻訳の目的とジャンルに相応しく、かつ対象とする読者に合った翻訳を行うには、どのような知識やスキルが必要であるのかを実践を通して学ぶ。</p> <p>翻訳プロセスや訳出物に関して相互に意見を述べ合うピア・レビューを取り入れながら、いくつかのジャンルから課題を選びグループワークに挑戦する。このような主体的学習と学び合いを通し、翻訳という営みが異なる言語間の単なる言葉の置き換えではなく、それぞれの言語が使用されている社会・文化をつなぐ多層的なコミュニケーションであることを学ぶ。</p>			
授業の達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化コミュニケーションとしての翻訳について基礎的な知識を得る。</li> <li>・翻訳に必要なとされる基本的な知識とスキルを身に付け、各ジャンルや読者に合わせて翻訳できる。</li> <li>・翻訳学の基礎的な理論を理解し、実際の翻訳を分析できる。</li> </ul>			
成績評価方法	<p>授業内の活動(20%)、学期中の提出課題(目標テキストの正確性、ジャンルの考慮度、工夫点等の解説の論理性)(30%)、最終回のプレゼンテーション(同上)(10%)、期末レポート(同上)(40%)の合計点により最終評価を行う。</p> <p>3分の2以上の授業回出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。</p>			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)	<p>毎回の授業に英和・和英(可能であれば国語、英英も)辞書を持参すること。</p> <p>「授業時間外の指導等」欄をよく読み、毎回の授業のために必要な準備を欠かさず行うことを期待する。</p> <p>そのほかにも、授業で扱った内容の復習を自主的にすることが望ましい。</p> <p>また各自のレベルに応じて、英語の文法の復習や単語の学習に加え、英語・日本語の様々な分野の読書を行うと、優れた翻訳テキストを生み出すための英語・日本語の読解・文章力を養うことができる。</p>			
テキスト・参考書	<p>テキスト:資料を配布する</p> <p>参考書:鳥飼玖美子(編著)(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房。</p>			
オフィスアワー	初回授業にて告知する。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	提出された課題は、チェックした上で授業にて返却するか、授業中にフィードバックを行う。レポートの返却を希望する者には後期開始時に返却する。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	齊藤 美野	<p>イントロダクション</p> <p>1. 基本用語</p> <p>2. 調べ物の重要性</p>	<p>【予習】シラバスに記載された翻訳のジャンルを確認し、各ジャンルの翻訳作品を探し読む(90分)</p> <p>【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)</p>	
2	齊藤 美野	<p>ニュース記事(1)</p> <p>1. 本ジャンルの特徴</p> <p>2. 本ジャンルの訳出に必要な工夫</p>	<p>【予習】配布資料を読み、下訳を作成する(90分)</p> <p>【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)</p>	
3	齊藤 美野	<p>ニュース記事(2)</p> <p>1. 翻訳演習</p> <p>2. ピア・レビュー</p>	<p>【予習】演習課題の改訳をする(90分)</p> <p>【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)</p>	

4	齊藤 美野	ニュース記事(3) 1. 翻訳演習と発表 2. 訳例との比較	【予習】演習課題の改訳をする(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
5	齊藤 美野	実務:メール 1. 本ジャンルの特徴 2. 本ジャンルの訳出に必要な工夫 3. 翻訳演習と発表	【予習】配布資料を読み、下訳を作成する(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
6	齊藤 美野	実務:プレスリリース 1. 本ジャンルの特徴 2. 本ジャンルの訳出に必要な工夫 3. 翻訳演習と発表	【予習】配布資料を読み、下訳を作成する(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
7	齊藤 美野	児童文学(1) 1. 本ジャンルの特徴 2. 本ジャンルの訳出に必要な工夫	【予習】配布資料を読み、下訳を作成する(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
8	齊藤 美野	児童文学(2) 1. 翻訳演習 2. ピア・レビュー	【予習】演習課題の改訳をする(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
9	齊藤 美野	児童文学(3) 1. 翻訳演習と発表 2. 訳例との比較	【予習】演習課題の改訳をする(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
10	齊藤 美野	字幕(1) 1. 本ジャンルの特徴 2. 本ジャンルの訳出に必要な工夫	【予習】配布資料を読み、下訳を作成する(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
11	齊藤 美野	字幕(2) 1. 翻訳演習 2. ピア・レビュー	【予習】演習課題の改訳をする(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
12	齊藤 美野	字幕(3) 1. 翻訳演習と発表 2. 訳例との比較	【予習】演習課題の改訳をする(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
13	齊藤 美野	広告:観光案内(1) 1. 本ジャンルの特徴 2. 本ジャンルの訳出に必要な工夫	【予習】配布資料を読み、下訳を作成する(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
14	齊藤 美野	広告:観光案内(2) 1. 翻訳演習 2. ピア・レビュー	【予習】演習課題の改訳をする(90分) 【復習】本日の授業で学んだ内容を、ノート等に自分の言葉でまとめる(90分)
15	齊藤 美野	グループ・プレゼンテーションとまとめ 1. 最終課題の口頭発表 2. 各ジャンルの訳出法の重要点を振り返る	【予習】プレゼンテーションの準備およびレポート執筆を行う(150分) 【復習】これからの各自の言語を用いたコミュニケーションに活かすために、各回の授業で学んだことを振り返り、重要点をノート等にまとめる(30分)

2020/08/04(火)14:35

授業科目名	英語通訳実践	授業形態	講義
英語科目名	Practical English Interpreting	開講学期	前期
対象学年	4	単位数	1
科目責任者	畑上 雅朗	ナンバリング	4217
科目担当者			
畑上雅朗(実務経験あり)			
授業の概要			
SDGs(持続可能な開発目標)をテーマに、アメリカと日本を旅しながら両国の学校教育・環境・社会・政治についても触れることができるような教材を用いて、英日、日英の通訳練習に取り組む。			
授業の達成目標			
1. 基本的な英日、日英逐次通訳ができる。 2. 日米両国のSDGsへの取り組みに加えて、学校教育、環境、社会、政治の基礎を理解し、それらをテーマとしたスピーチや簡単な通訳ができる。			
成績評価方法			
授業の中での通訳などの練習(50%)と定期試験(50%)を統合して判断する。			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)			
通訳の(練習含む)経験は不要だが、総合テーマとなるSDGsについて、ある程度は知っておくこと。アメリカや日本の教育、環境、社会、政治などに興味を持つようにすること。受講生の関心、レベル、人数によっては、シラバスに記載された授業内容に大幅な変更が生じる場合もあるので注意。			
テキスト・参考書			
特になし、随時指示する。			
オフィスアワー			
授業終了後に教室で質問を受け付ける。随時、電子メールで質問を受け付ける。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法			
課題提出締切後、授業内で返却する。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】			
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)
1	畑上雅朗	オリエンテーション (1)授業の進め方について説明する。 (2)SDGsについて英語と日本語で確認する。	【予習】通訳、SDGsについて調べる(90分)。 【復習】授業で出てきた英単語や表現を覚える。できればSDGsに関する本や記事などを読んでみる(90分)。
2	畑上雅朗	<ワシントンに到着> アメリカの教育制度 アメリカの学校教育制度の特徴について英語で説明する教材で通訳練習するとともに、日本の教育制度との違いについて考える。	【予習】アメリカの学校教育制度についてウィキペディア日本語英語版等で調べ、関連用語を書き出して覚えておく(90分) 【復習】授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
3	畑上雅朗	<メリーランド州へ> 生態学的に極めて重要なチェサピーク湾の独特な自然環境について英語で触れる。関連映像を使って通訳練習もする。	【予習】 チェサピーク湾について日本語英語ウィキペディア等で読んでおく。 不明な単語や表現等はできるだけ調べておく(90分)。 【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
4	畑上雅朗	<再びワシントンへ> ワシントンの、とある学校におけるSDGsの取り組みを取り上げ、関連映像を使って通訳練習をする。	【予習】 事前に知らせるワシントンにある学校で行われているSDGs活動についてホームページで調べておく。できれば学校のホームページ全体を読んでみる(90分)。 【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
5	畑上雅朗	<ミネソタ州へ> ミネソタ州ミネアポリスにある環境施設	【予習】 事前に知らせるミネアポリスの環境施設についてホームページで調べ、不明の単語や表現を勉強しておく(90分)。

		を訪問する。関連映像を使った通訳練習をする。	【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
6	畑上雅朗	<オレゴン州へ> 環境に優しいことで知られるオレゴン州ポートランドに関する映像を使用して通訳の練習に充てる。	【予習】オレゴン州ポートランドについてウィキペディア日本語英語版等で調べる(90分)。 【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
7	畑上雅朗	<アリゾナ州へ> 砂漠植物園または大学の持続可能性グローバル研究所を訪問。関連映像を使って通訳練習。	【予習】 砂漠植物園もしくは大学持続可能性グローバル研究所に関する資料を読み、不明の単語や表現を調べておく(90分)。 【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
8	畑上雅朗	アメリカのSDGsについて学んだことを英語でディスカッションする。	【予習】 これまでの学習内容を振り返っておく(90分)。 【復習】 ディスカッションしてみて、何が足りなかったかを考え、次回につなげる(90分)。
9	畑上雅朗	<東京に帰国> 日本のSDGs全般を学ぶ。SDGsとは何かについてのビデオを見て、通訳してみる。	【予習】 日本のSDGsについてウィキペディア等で読んでおく、不明な単語や表現はできるだけ調べておく(90分)。 【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
10	畑上雅朗	東京の、とある学校におけるSDGsの取り組みを取り上げ、関連映像を使って通訳練習をする。	【予習】 事前に知らせる、とある東京にある学校で行われているSDGs活動についてホームページで調べておく。できれば学校のホームページ全体を読んでみる(90分)。 【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
11	畑上雅朗	<北九州へ> 北九州の世界遺産を知る。環境施設の関連映像を使って通訳練習する。	【予習】 北九州の世界遺産についてウィキペディア等で読んでおく。不明な単語や表現はできるだけ調べておく(90分)。 【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
12	畑上雅朗	北九州の、とある学校におけるSDGsの取り組みを取り上げ、関連映像を使って通訳練習をする。	【予習】 事前に知らせる北九州にある学校で行われているSDGs活動についてホームページで調べておく。できれば学校のホームページ全体を読んでみる(90分)。 【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
13	畑上雅朗	<北海道へ> アイヌ伝統文化について学ぶ	【予習】 アイヌ民族について調べておく(90分)。 【復習】 授業で新たに出てきた単語や表現を覚える(90分)。
14	畑上雅朗	日本のSDGsについて学んだことを英語でディスカッションする。	【予習】 今までの学習を振り返る(90分)。 【復習】 ディスカッションしてみて、何が足りなかったかを考え、次回につなげる(90分)。
15	畑上雅朗	テスト(予定)	



2020/02/21(金)16:08

授業科目名	コミュニケーションワークショップA(通訳ワークショップ)		授業形態	演習
英語科目名	Communication WorkshopA (Interpreting Workshop)		開講学期	後期
対象学年	4		単位数	1
科目責任者	吉田 理加		ナンバリング	4218
科目担当者				
吉田 理加、平塚 ゆかり、室峰 秀行				
授業の概要				
【通訳ワークショップ(西語・中国語・仏語)】 (概要) グローバル化によって人々の移動が活発になり、共通語としての英語使用が盛んになると同時に、日本社会の多言語化も進んでおり、スペイン語・中国語・フランス語等の多言語通訳のニーズも高まっている。このような現状を踏まえ、多言語通訳事例に関するリサーチや討論を通して多言語通訳の仕事や通訳が活躍する場面／分野について理解を深め、将来的に通訳・異文化コミュニケーション関連の業務につく際に役立つ実務的内容を学習する。 (スペイン語)スペイン語通訳業務の一般的な傾向と特徴を理解するために、コミュニティ(司法・医療・教育)／ビジネス／放送などの多種多様な通訳現場における具体的な通訳事例について議論し、基本的な通訳者の役割と通訳倫理、そして通訳実践に必要な知識やスキルの習得の仕方を学ぶ。また、異文化コミュニケーションの視点から通訳を捉え、「文化」をどのように訳すかについても討論する。 (中国語)中国語通訳業務の成り立ちを理解するために、中国通訳の歴史を概観する。その上で現代における具体的な通訳業務の事例を見ながら、社会文化と通訳の関係性について議論を進める。また授業を通して、中国の高等教育機関における通訳教育、通訳市場の現状を理解し、今後の日本における通訳者養成のあり方、通訳ビジネスについても考察する。				
授業の達成目標				
①多岐にわたる通訳業務の種類や通訳者になるために必要な要素を理解する。 ②異文化コミュニケーションの視点から通訳業務を捉える。 ③どのような専門知識や基礎知識を知るべきかを知る。 ④通訳分野でのキャリアデザインを描くことができる。				
成績評価方法				
授業参加(50%)、レポート(50%)の合計点により評価する。 三分の二以上の出席を評価の前提条件にする。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
履修した第二外国語に関わらず本授業を履修することが可能である。体系的な履修のためコミュニケーション(通訳)を履修していることが望ましい。毎授業前に予習を行い、積極的に授業に参加することを期待する。				
テキスト・参考書				
テキスト:プリントを配布する 参考図書:鳥飼玖美子(編著)(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房。その他、授業時に適宜紹介する。				
オフィスアワー				
吉田:金曜日3限(メールでアポをとること) 平塚:金曜日3限(メールでアポをとること) 室峰:外部講師のため授業の前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業時間内またはメールなどを用いて返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	吉田 理加	スペイン語通訳事情① 南米出身スペイン語と通訳 ①スペイン語通訳のニーズが高いメキシコの日系企業での通訳業務 ②日本で暮らす南米出身スペイン語話者とコミュニティ通訳	【予習】90分 日本における南米日系人のコミュニティ形成と通訳のニーズと供給状況について調べ、A4用紙1枚程度にまとめておく。 【復習】90分 授業内容を踏まえ、メキシコにおける日西通訳の現状と課題、並びにスペイン語コミュニティ通訳の現状と課題をまとめる。	
2	吉田 理加	スペイン語通訳事情②	【予習】90分 放送通訳の特徴とサッカー分野における(スペイン語)通訳の事例についてどのような事例があるかを調べ、A4用紙1枚程度にまとめておく。	

		放送通訳、スポーツ(サッカー)通訳	【復習】90分 授業内容を踏まえ、スペイン語の放送通訳とサッカー通訳の特徴についてまとめる。
3	吉田 理加	スペイン語通訳事情③ ①外交、ビジネス一般、ワイン・食品(イベリコハム)、開発支援、どのスペイン語通訳が活躍する様々な分野の現状 ②様々な国で話されているスペイン語の多様性と通訳	【予習】90分 事前に配布された課題に従って、必要なリサーチを行い、A4用紙1枚にまとめておく。 【復習】90分 3回の授業内容を踏まえ、スペイン語通訳事情についてまとめる。
4	平塚 ゆかり	中国語通訳事情①、中国通訳史 中国における通訳の歴史について講義を行う。古代、近代、現代の通訳を概観し、社会的、文化的背景と通訳との関係について考察する。	【予習】90分 事前に配布する中国通訳史についての参考文献を読み、内容を理解した上で授業に臨むこと。 【復習】90分 授業内容を踏まえ、それぞれの時代における通訳の特徴、社会文化との関係をレポートにまとめる。
5	平塚 ゆかり	中国語通訳事情② 現代中国語通訳の現状 前半は中国語観光通訳、ビジネス通訳、放送通訳、司法通訳、会議通訳についての事例、通訳者養成の現状と課題について講義を行う。後半は講義内容を踏まえて、通訳規範、通訳者の役割意識などについて討論を行う。	【予習】90分 事前に配布する中国通訳実務についての資料を読み、内容を理解した上で授業に臨むこと。 【復習】90分 授業内容を踏まえ、最も興味のある分野の通訳の現状と課題についてさらにリサーチを行い、レポートとしてまとめる。
6	平塚 ゆかり	中国語通訳事情③ 中国における通訳の現状 中国の一带一路政策推進における通訳関連政策、通訳者教育、通訳ビジネスへの取り組みについて講義を行う。後半は講義内容を踏まえて、今後の通訳ビジネスのあり方、通訳者養成についての討論を行う。	【予習】90分 事前に配布する中国の通訳国家標準、通訳者養成、通訳に関する政策についての資料を読み、内容を理解した上で授業に臨むこと。 【復習】90分 3回の授業内容を踏まえ、中国語通訳事情についてレポートにまとめる。
7	室峰 秀行	医療通訳事情:(フランス語・英語):ハイチ大地震(2010年)救護・復興におけるフランス語通訳者の役割や英仏語圏アフリカの病院管理プロジェクトにみる英語フランス語通訳者のニーズについて講義する。その講義を通じて、英語以外の通訳者に求められる資質は何かを考察する。	【予習】90分 医療と外国語はどのように結びつくのかを考えておく。受講中、外国語を使った貢献方法を話し合い、グループごとに発表をする。 【復習】90分 授業中の発表内容を踏まえ、自身が行いたい外国語を使ったボランティア活動や仕事を行うまでの学習プランを立てる。
8	室峰 秀行	医薬通訳事情(英語・フランス語):医学会や製薬業界において使える語学力と学習法の紹介 例)医学会、製薬会社の代表的会議における通訳の例を挙げながら、製薬業界の通訳になるキャリアパスを説明する。	【予習】90分 製薬業界とはどのような業界かを調べておく。また、製薬会社に勤めながら外国語を使う場面にはどのようなものがあるかを考えてくる。 【復習】90分 講義を聞いて、自分の想像と類似していたか、外国語を使えることが製薬業界でどのようなメリットとなるかを整理する。

2020/02/21(金)16:49

授業科目名	コミュニケーションワークショップA(コミュニティ通訳)		授業形態	演習
英語科目名	Communication Workshop A (Community Interpreting)		開講学期	後期
対象学年	4		単位数	1
科目責任者	大野 直子		ナンバリング	4219
科目担当者				
吉田 理加、大野 直子				
授業の概要				
【コミュニティ通訳(司法/医療)】 (概要) (司法)司法通訳とは、司法手続きの一連の過程で行われる通訳のことで、具体的には入国管理局、警察、検察庁、裁判所などにおける通訳を指す。当演習では、司法通訳の全容について概説し、特に刑事裁判手続きにおける法廷通訳について一連の流れに沿って法廷通訳の特徴を説明し、法律用語の通訳や、通訳倫理についても考察する。授業日に通訳を介した裁判が実施されることがあれば、裁判傍聴も実施する可能性がある。 (医療)日本における外国人人口及びその労働力人口は、近年増加しており、在日、訪日外国人と日本の医療をつなぐ医療通訳の重要性はますます高まっている。まず病院での受診の流れを学び、「医療者-患者のコミュニケーション」を身につける上で重要となる技術を実践により総合的に身につけることを目的とする。				
授業の達成目標				
(司法) 1. 司法通訳の概要を理解する。 2. 刑事裁判の法廷通訳の流れを学び、基本的な法廷通訳の役割に関する知識を体系的に習得する。  (医療) 1. 病院内での医療通訳の流れがわかる。 2. 基本的な医療用語を理解し、医療通訳を実践できる。				
成績評価方法				
(司法)授業参加度(50%)、レポート(50%) (医療)授業参加度(50%)、試験(50%)				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
(司法)コミュニケーション(通訳)を履修していることが望ましい。与えられた課題をした上で出席すること。 (医療)グループワークを行うため、遅れずに参加すること。英語辞典の機能がついた電子媒体を、毎回の授業に持参することとする。受講者や進度に合わせて授業内容を変更することがある。その際は、授業内の指示に従うこと。				
テキスト・参考書				
(医療)現場ですぐに役立つ!メディカル英会話 山田千夏・山田貞子 メディカ出版 コミュニティ通訳入門 水野真木子 大阪教育図書 (司法) 参考書: 渡辺修・水野真木子・中村幸子(2010).『実践 司法通訳[裁判員裁判編] シナリオで学ぶ法廷通訳』現代人文社 渡辺修、長尾ひろみ、水野真木子(2004).『司法通訳:Q&Aで学ぶ通訳現場』松柏社. 水野 真木子・渡辺 修(2015).『法廷通訳人の倫理:アメリカの倫理規定に学ぶ』松柏社. 最高裁判所事務総局刑事局監修(2010).『法廷通訳ハンドブック実践編【中国語】(改訂版)』法曹会. 最高裁判所事務総局刑事局監修(2011).『法廷通訳ハンドブック実践編【英語】(改訂版)』法曹会. 最高裁判所事務総局刑事局監修(2012).『法廷通訳ハンドブック実践編【スペイン語】(改訂版)』法曹会. 最高裁判所事務総局刑事局監修(1992).『法廷通訳ハンドブック実践編【フランス語】』法曹会. 津田守編(2013).『15言語の裁判員裁判用語と解説』(全3巻)現代人文社. 水野真木子・内藤稔(2015).『コミュニティ通訳—多文化共生社会のコミュニケーション』みすず書房.				
オフィスアワー				
別途公開している教員のオフィスアワーを確認すること。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
(司法)(医療)授業内やJ-Passを使用し適宜返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	

1	大野 直子	医療通訳の基本 受診の流れ 医療通訳演習	【予習】演習までに、テキストの指定された箇所を読んでおく(90分) 【復習】授業で習得した単語と表現を復習する(90分)
2	大野 直子	総合案内～受付 医療通訳演習	【予習】演習までに、テキストの指定された箇所を読んでおく(90分) 【復習】授業で習得した単語と表現を復習する(90分)
3	大野 直子	現病歴～健康歴 医療通訳演習	【予習】演習までに、テキストの指定された箇所を読んでおく(90分) 【復習】授業で習得した単語と表現を復習する。
4	大野 直子	会計～薬 医療通訳演習	【予習】演習までに、テキストの指定された箇所を読んでおく(90分) 【予習】授業で習得した単語と表現を復習する(90分)
5	吉田 理加	司法通訳とは 司法通訳人の職業倫理	【予習】参考文献を読み、司法通訳の特徴並びに司法通訳人の職業倫理をA4用紙1枚にまとめて授業に持参すること(90分) 【復習】授業内容を復習すること(90分)
6	吉田 理加	法廷通訳各論 刑事裁判の流れと通訳 開廷・通訳人宣誓・起訴状朗読・黙秘権 の告知・罪状認否	【予習】事前に課された課題に取り組み、スムーズな通訳演習ができるように準備して授業に参加すること(90分) 【復習】授業内容を復習すること(90分)
7	吉田 理加	法廷通訳: 刑事裁判の流れと通訳 法律用語・専門用語 被告人質問	【予習】事前に課された課題に取り組み、スムーズな通訳演習ができるように準備して授業に参加すること(90分) 【復習】授業内容を復習すること(90分)
8	吉田 理加	法廷通訳各論 刑事裁判の流れと通訳 冒頭陳述・弁論・論告・判決	【予習】事前に課された課題に取り組み、スムーズな通訳演習ができるように準備して授業に参加すること(90分) 【復習】授業内容を復習すること(90分)

2020/02/21(金)15:42

授業科目名	コミュニケーションワークショップB(医薬翻訳実践)		授業形態	演習
英語科目名	Communication Workshop B ( )		開講学期	後期
対象学年	4		単位数	1
科目責任者	KNEZEVIC Julija		ナンバリング	4220
科目担当者	KNEZEVIC Julija			
授業の概要	<p>グローバル化が進む医療の分野では、高度な英語運用能力と医療知識の両方を備えた英語医療コミュニケーションの専門家に対する需要が高まっている。「英語医療コミュニケーション」とは医療における英語でのコミュニケーションのことで、「医薬翻訳実践」では医療専門家同士で行われる「医療者-医療者のコミュニケーション」としての医薬翻訳に必要な英語運用能力と医療知識を総合的に身につけることを目的とする。まず英語で書かれた医学論文の読解方法を体系的に習得する。その後出版倫理についての基礎知識を学び、次に日英翻訳に必要なアカデミックライティングの基本と医薬翻訳に必要なツールの活用方法を身につける。最後に医薬関連の英日翻訳、日英翻訳の課題に取り組み、授業を通して学んだ知識と技術の実践的な応用方法を学習する。</p>			
授業の達成目標	<p>診療室の英語の取得、外国人患者の受け入れ・病院体制の理解・教養授業の実施：海外と日本の医療現場を再現したロールプレイを中心に進めていく</p>			
成績評価方法	<p>授業参加10%、積極的な姿勢30%、外国人患者の受け入れ・医療制度に関するレポート提出30%、医療英語の単語クイズ30%。</p>			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)	<p>予習と復習を必ずすること。受動態ではなく、積極的に質問などをすること。</p>			
テキスト・参考書	<p>・整形外科ワークブック6(税込1,100円) ・メンタルヘルスのワークブック5(税込1,100円) 初回授業時に販売予定。</p>			
オフィスアワー	<p>講義前後とする。</p>			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	<p>授業内を利用し、レポート等は返却予定。適宜授業内での補足解説を行う。</p>			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
	ジュリアクネゼ ヴィッチ	循環器: 狭心症	【予習】(90分)単語を覚えること 【復習】(90分)表現にフォーカスし 授業の内容を振り返ること	
	ジュリアクネゼ ヴィッチ	呼吸器: COPD	【予習】(90分)単語を覚えること 【復習】(90分)表現にフォーカスし 授業の内容を振り返ること	
	ジュリアクネゼ ヴィッチ	消化器: 胃がん	【予習】(90分)単語を覚えること 【復習】(90分)表現にフォーカスし 授業の内容を振り返ること	
	ジュリアクネゼ ヴィッチ	婦人科・腫瘍学: 乳がん	【予習】(90分)単語を覚えること 【復習】(90分)表現にフォーカスし 授業の内容を振り返ること	
	ジュリアクネゼ ヴィッチ	泌尿器科: 血尿	【予習】(90分)単語を覚えること 【復習】(90分)表現にフォーカスし 授業の内容を振り返ること	
			【予習】(90分)単語を覚えること	

ジュリアクネゼ ヴィッチ	内科:糖尿病	【復習】(90分)表現にフォーカスし 授業の内容を振り返ること
ジュリアクネゼ ヴィッチ	心療内科:鬱	【予習】(90分)単語を覚えること 【復習】(90分)表現にフォーカスし 授業の内容を振り返ること
ジュリアクネゼ ヴィッチ	最先端医療:HIFU療法	【予習】(90分)単語を覚えること 【復習】(90分)表現にフォーカスし 授業の内容を振り返ること

2020/02/26(水)15:33

授業科目名	コミュニケーションワークショップB(テクノロジー翻訳)		授業形態	演習
英語科目名	Communication Workshop B (Translation Tecchnology)		開講学期	後期
対象学年	4		単位数	1
科目責任者	山田 優		ナンバリング	4222
科目担当者				
山田 優				
授業の概要				
この授業では、翻訳テクノロジーについて概観する。具体的には、ニューラル機械翻訳(人工知能、ディープラーニング)、ポストエディット、翻訳メモリ、ローカリゼーション、クラウドソーシング、字幕翻訳技術についての基礎を理解し、ハンズオン演習を通して基本原理と活用方法をマスターする。これにより、各テクノロジーのメリット・デメリットについて一定の考えを述べられるようになることを目指す。また、テクノロジーの活用を、人間の訳出プロセス、認知プロセス(脳科学的アプローチ)などの知見を取り入れて、人間とコンピュータのインターアクションの可能性についても解説する。				
授業の達成目標				
1. 翻訳テクノロジー(機械翻訳、翻訳メモリ、字幕翻訳ソフトなど)の基本原理、利用方法を理解する 2. 人間の翻訳プロセスと人工知能の訳出プロセスの違いを、翻訳学、翻訳プロセス研究、脳科学的アプローチ等の観点から、説明できるようになる。				
成績評価方法				
授業への参加(50%)、レポート(50%)との合計点により最終評価を行う。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
受講前に、翻訳通訳学の基礎理論を履修していること。 事前に下記のサイトの「参考資料」に目を通しておくこと。 <a href="https://www.apple-eye.com/kobe-college/">https://www.apple-eye.com/kobe-college/</a> 授業に、インターネットにアクセスできるパソコンを持参すること。 gmailアカウントのアドレスを持っていること。 授業では、パソコンを使った演習を行なうので、基本的なパソコン操作に精通していること。 また、YouTubeにgmailのアカウントを使ってログインできることを確認しておくこと。				
テキスト・参考書				
必要な資料は、以下のサイトにアップしてある。  <a href="https://www.apple-eye.com/kobe-college/">https://www.apple-eye.com/kobe-college/</a>  このサイトの「参考資料」に目を通しておくこと。				
オフィスアワー				
授業内で指示する。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
メール等で連絡を行なう。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1-4	山田優	オリエンテーション、翻訳市場の概要、産業翻訳、ローカリゼーション、国際化とは 翻訳テクノロジーの概要 翻訳メモリとは 機械翻訳とは 機械翻訳とは	【予習】指定のリーディングアサインメントを行う。 【復習】翻訳メモリを使って行なう課題を行なう。 (予習・復習は各コマあたりそれぞれ90分とする。以降同様)	
5-8	山田優	機械翻訳とは続き プリエディット、ポストエディットとは 字幕翻訳とクラウドソーシング YouTubeを使った字幕翻訳 人工知能、脳科学、翻訳の将来	【予習】指定のリーディングアサインメントを行う。 【復習】レポートを提出する。	

		まとめ	